

目次

1. 多様性における一致	5
2. 教会内の分裂	10
3. 教会内の不道徳	15
4. 兄弟間の訴訟	20
5. 結婚に関する諸原則	25
6. イスラエルの歴史からの教訓	31
7. 聖餐式	36
8. 霊の賜物	41
9. 「さらにすぐれた道」	46
10. 福音と復活	52
11. 「恵みが、あなたがたにあるように」	57
12. 新しい契約の務め	62
13. キリストのための大使たち	67

安息日聖書教科は、他のコメントをいっさい加えず、完全に聖書と証の書のみに基づいた毎日の研究プログラムです。引用文は、簡潔で直接的な見解を提供するために、可能なかぎり短くされています。ある部分では、明瞭さや、適切な前後関係、また読みやすさのために〔〕の括弧が使われています。抜粋されている原文をさらに研究することをぜひともお勧めします。

セブンスデーアドベンチス ト改革運動世界総会安息 日 学 校 部 (P.O.Box 7240 Roanoke, Virginia 24019-0240.U.S.A)

安息日聖書教科 Vol.98, No.2

編集&発行:

S DA改革運動日本ミッション

〒 368 - 0071 埼玉県秩父郡横瀬町芦ケ久保 1607 - 1

TEL: (0494) 22-0465

URL:

http://www.4angels.jp

E-mail:

sdarm.shomaru@gmail. com

イラスト:Adobe Stocks on the front cover; Advent Digital Media on pp. 30, 72; Map Resources on pp. 4, 72...

まえがき

今期のあいだ、世界中の安息日学校の生徒たちは、使徒パウロがコリント人へ宛 てた手紙の中で明らかにした福音について研究していきます。

ときに、パウロは自分の伝道旅行において一人で働きました。アテネ訪問に続いて、西暦 51 年ごろ、彼はコリントへ到着しました。そこは、ローマのアカヤ地方の政府および商業の発達した中心地でした。このせわしい都市は当時アテネより 5 倍大きい都市でした。その人通りの激しい通りは、ギリシヤ人、ユダヤ人、ローマ人、またビジネスや娯楽に夢中な旅行者たち、現在の生涯の事柄の先は、ほとんど考えもしなければ気にもしない人々で満ちていました。ほとんど都市全体が偶像礼拝、特に官能的な娯楽に夢中になっていました。

この都市を訪問していたとき、パウロは福音を宣べ伝える動機を誤解する人がないように、手ずから働き自給していました。 そこで、彼は二人のクリスチャン信徒に出会いました。アクラとプリスキラで彼が一緒に住んでいた天幕づくりの仲間でした(使徒行伝 18:1-3 参照)。彼は昼も夜も働き、「パウロは安息日ごとに会堂で論じては、ユダヤ人やギリシヤ人の説得に努めた」(使徒行伝 18:4)。

パウロは、どのような理論を用いて、コリントにいる魂を勝ち取ったのでしょうか。アテネで彼は芸術と学問の洗練された中心地にいた知的な頭脳に訴えるため、論理と科学の雄弁な議論を用いてきました。しかし、彼が望むほどの成果がありませんでした。そこで、対照的に、彼はコリント人への訴えを説明して次のように証しています。「兄弟たちよ。わたしもまた、あなたがたの所に行ったとき、神のあかしを宣べ伝えるのに、すぐれた言葉や知恵を用いなかった。なぜなら、わたしはイエス・キリスト、しかも十字架につけられたキリスト以外のことは、あなたがたの間では何も知るまいと、決心したからである。わたしがあなたがたの所に行った時には、弱くかつ恐れ、ひどく不安であった。そして、わたしの言葉もわたしの宣教も、巧みな知恵の言葉によらないで、霊と力との証明によったのである。それは、あなたがたの信仰が人の知恵によらないで、神の力によるものとなるためであった」(コリント第一 2:1-5)。

なぜ、今日この主題がわたしたちにとって助けとなるのでしょうか。興味深いことにコリントの哲学や生活様式は、今日わたしたちの社会に行きわたっているものと非常によく似ています。人々は、「自分を愛する者、…神よりも快楽を愛する者、信心深い様子をしながらその実を捨てる者」ではないでしょうか(テモテ第二 3:2,4,5)。コリントにおいて、ギリシャ文化からの習慣や慣習が考えに充満し、はなはだしくユダヤ・クリスチャンのふるまいの標準に反する不道徳な慣習がはびこっていました。人々は教育され、そしてキリスト、しかも十字架につけられた純潔で汚されていないキリストの真理に完全に根ざす必要がありました。ちょうど今日わたしたちすべての者がそうであるように。

これらの思想を覚えて、安息日学校の生徒たちがどこでも、これらの重要な教訓の研究によって強められ祝福されるように、お祈りいたします。

世界総会安息日支部

第一安息日献金 チリのユニオン本部のために

美しい国であるチリは、アンデス山脈が横にそびえたち、世界最大の銅の産出 国です。また、様々な鉱物、木材、果物などを輸出しています。

19,236,858人のチリの住民は、広く礼拝の自由という祝福を受けています。人口の70%がカトリック信仰を告白していますが、その数は減少しています。1925

年にカトリック教会は国家から分離し、こうして、公認宗教としての歴史を閉じました。

チリは 1930 年にメンドーサ・ロスアンデスを通じて、隣国アルゼンチンから改革運動の伝道の流れを受けました。その時以来、働きは自己犠牲を持って広められ、止むことがありませんでした。今日、SDARMは、長く伸びた地形を通じて効果的に牧師や働き人を配置し、ほとんどの地域に代表がいます。



わたしたちは、次のことに気づかされます。「神は昔と同じように今日も、教会の事柄を行うのに秩序と組織とを要求される。神はみわざに承認の印をおすことができるように、それが完壁に正確に進められることを望んでおられる。クリスチャンはクリスチャンと、教会は教会と一致し、人間の力が神の力と協力し、すべての働きが聖霊に従属し、神の恵みのよいおとずれを世に知らせるために、すべてのものが結合しなければならない」(患難から栄光へ上巻 99)。

チリ・ユニオンの本部は都市リナレスの郊外地域に設立されました。そこはおよそ首都サンチアゴの190マイル(305キロメートル)南に位置しています。そこには大きな一画の土地があり、大きな集会ができるように設計された広々とした施設があります。セミナー、会議、キャンプ、自然治療の実習を伴う健康活動が行われています。大変な犠牲を払って、この建設の働きは、数年にわたり発展してきましたが、この事業を完了することができませんでした。それは大きく、地震が大変多い国で特別な注意が必要なこと、また地震によって生じた損害に耐えるために地域の様々な場所に資金を向けなければならないことによります。そこで、世界中のわたしたちの親愛なる兄弟友人がたに、この重要な事業を完成させるための献金をお願いいたします。皆さんの惜しみない協力によって、この目的を達成することができ、こうしてわたしたちの伝道能力が強められることを確信しています。神様がみなさんを豊かに祝福してくださいますように!

チリのユニオンから皆さんの兄弟より

多様性における一致

暗唱聖句:「父よ、それは、あなたがわたしのうちにおられ、わたしがあなたのうちにいるように、みんなの者が一つとなるためであります。すなわち、彼らをもわたしたちのうちにおらせるためであり、それによって、あなたがわたしをおつかわしになったことを、世が信じるようになるためであります。」(ヨハネによる福音書 17:21)

「福音宣伝の範囲は世界的なものでなければならなかった。十字架の使命者たちはクリスチャンの一致のきずなで結ばれ、こうして彼らが、神にあってキリストと一つであるということを世に示さないかぎり、彼らの大切な使命を達成することは望めなかった。」(患難から栄光へ上巻 92)

推奨文献: 伝道上巻 129-143

日曜日 3月27日

- 1. キリストの祈りに答える
- a. キリストのとりなしの祈りの中で、このお方は御父へどのような特別な要求を提示なさいましたか (ヨハネ 17:11, 14, 21-23)。
- b. 兄弟たちの間の一致を実現するために不可欠な条件はなんですか (イザヤ 45:22; ヘブル 12:1, 2)。

「〔弟子たち〕の霊的生活と力は、福音を伝える使命をゆだねて下さったおかたと、 いかに親しくつながっているかにかかっているのである。

弟子たちは、キリストにつながっていたときにのみ、聖霊の力を受けて、天使たちの協力を期待することができた。」(患難から栄光へ上巻 92, 93)

「わたしたちは一つになるべきであり、この神聖な一致は神の教会の中で熟考され、大事にされなければならない。一人一人がキリストの祈りの成就をもたらすことを求めなければならない。わたしたちはわたしたちの兄弟たちに対する悪の考えをすべて追い払うべきである。」(レピュー・アンド・ヘラルト 1892 年 8 月 16 日)

2. 分裂を克服する

a. どのようにわたしたちは家族や教会における分裂に打ち勝つことができますか(ヨハネ 15:4)。

「家庭や教会内の不和や分裂の原因は、キリストから離れることにある。キリストに近づくことは、互いに近づき合うことである。教会と家庭が真に一致する秘訣は、折衝の仕方や運営の方法とか、困難を打開しようとする超人間的な努力にはなく―これらのことも大いにしなければならないが―キリストとの結合にある。

大きな円があって、そのふちからたくさんの線が中心に向かって集中している図を想像されたい。これらの線は中心に近づけば近づくほど互いに接近し合っている。

クリスチャン生活はこのようなものである。キリストに近づけば近づくほど、私たちは互いに近くなる。神の民が一致して協力的な行動をとるとき、神があがめられる。」(アドペンチスト・ホーム 191)

b. キリストが天の聖所でわたしたちのためにとりなしをなさっておられる時に、わたしたちはどのようにこのお方に目を向けることができますか (ヨハネ 5:39, 40; 17:3)。

「神に仕えようと心に決めている人は、神のためにあかしする機会を見つけるであろう。まず神の国と神の義を求めようとしている者には、困難などはなんら妨げる力のないものである。彼は祈りとみことばの研究から与えられる力によって徳を求め、悪を捨てる。罪びとたちの反対に耐えたおかた、信仰の導き手であり、またその完成者であるイエスを仰ぎ見つつ、信者は侮辱と嘲笑に勇敢に立ち向かうのである。それぞれの事情に応じて十分な助けと恵みが、真実なことばをお語りになるかたによって約束されている。彼は助けを求めてくる魂を、その変わることのないみ腕で抱擁される。このかたに任せていれば、われわれは『わたしが恐れるときは、あなたに寄り頼みます』と言って、安心して休むことができる(詩篇 56:3)。彼に信頼するすべての者に、神はみ約束を成就して下さるのである。」(患難から栄光へ下巻 159)

「わたしたちが神を知ることができるのは、キリストを知ることによってのみである。神からつかわされたお方は、これらの言葉を聞くようにと、すべての者を招いておられる。それらは神のみ言葉であり、すべての者がそれらに注意を払うべきである。なぜなら、それによって、彼らは裁かれるからである。救いに至るようにキリストを知ることは、霊的な命によって活力を得ること、このお方のみ言葉を実践することである。それがなければ、他のすべてのものに価値はない。」(サインズ・オブ・ザ・タイムズ1898年1月27日)

3. 神のみ言葉の力

a. 天と地はどのように存在したのですか (詩篇 33:6, 9)。

「わたしたちの世界を形づくるにあたり、神は既存(きそん)の物質や要素の恩義をこうむられたのではない。なぜなら、『見えるものは現れているものから出てきたのでない』からである。その反対に、万物は、物質的なものも霊的なものも、主なるエホバの御声に固く立ったのである。そしてそれらは、このお方ご自身の目的のために創造された。諸天とそれらの万軍、地とその中にあるすべてのものは、このお方の御手のわざであるばかりでなく、このお方の口の息によって存在するようになったのである。」(セレクテッド・メッセージ3巻312)

b. 主がわたしたちを新しい被造物に造り変えられる方法を説明しなさい (ヨハネ 6:63)。

「神のみことばは魂に受け入れられて、思想を形成し、品性の発達の要素となる。信仰の目をもってイエスをたえずながめることによって、われわれは強められる。神は、飢えかわいているご自分の民に最もとうとい啓示をお与えになる。彼らはキリストが自分自身の救い主であることを発見する。キリストのみことばを食べるときに、彼らは、それが霊でありいのちであることを知る。みことばは、生れながらの世俗的な性質を滅ぼし、イエス・キリストのうちにある新しいいのちを与える。聖霊は、助け主として魂にくだる。人を生れ変らせる神の恵みの力によって、神のみかたちが、弟子のうちに再現され、彼は新しい人間となる。愛が憎しみに入れ代り、心は神のみかたちにかたどられる。『神の口から出る一つ一つの言で生きる』というのは、このことである(マタイ4:4)。これが天からくだるパンを食べることである。』各時代の希望中巻 141)

c. わたしたちはどのように神のみ言葉を学ぶべきですか (ヨハネ 6:53–58)。

「神のみことばをさとることができるように、聖霊の助けを神に求めながら聖書を注意深く研究しなければならない。一節をとりあげて、神がわれわれのためにその一節のなかにおかれた思想を確かめる仕事に頭脳を集中しなければならない。われわれは、その思想がわれわれ自身のものとなるまで、それについて考えをめぐらさねばならない。その時われわれは、『主が言われたこと』を知るのである。」(同上 140)

- 4. 祈りを通してイエスを眺める
- a. イエスがひそかに祈られた頻度を示す例をあげなさい。また、わたしたちはこれ から何を学ぶべきであるかを示す例をあげなさい (マルコ1:35; 6:45, 46)。

「イエスご自身も、この世に住んでおられたときに、しばしば祈られた。救い主は御自ら、わたしたちと同じように、欠乏と弱さをおぼえて、義務と試練に耐えうる新しい力を天父より受けるために、熱心に祈り求める者となられた。かれは、すべてのことにおいてわたしたちの模範である。かれは、弱きわたしたちの兄弟となり『すべてのことについて、わたしたちと同じように試練に会われ』た。しかし、罪なき方であったので、そのご性質が悪を退けたのであった。このお方は罪の世にあって、はげしい心の戦いと苦悩に耐えられた。このお方の人間性は祈りを必要としまた特権とした。イエスは、父なる神と交わって慰めと喜びをお受けになった。もし人類の救い主である神の子でさえ、祈りの必要をお感じになったのであるならば弱い罪深い人間には、どれほど熱心な、絶えざる祈りがなければならないことであろう。」(キリストへの道 127, 128)

b. 預言者ダニエルの献身的な生活についてわたしたちは何を読むでしょうか (ダニエル 6:10)。 ダビデ王はどうでしたか (詩篇 119:62, 145, 147, 148)。

「ダニエルは祈りの人であった。そして神は彼に不節制というわなに彼を引き込もうとするあらゆる感化力に抵抗するために、彼に知恵と堅固さをお与えになった。彼は青年時代においてさえ、全能者の力のうちに、彼は道徳的な巨人であった。その後、もし人が30日間王以外に、神でも人でも願い事をするならば、その人はししの穴に投げ込まれるという法令が発布されたとき、ダニエルは、堅い不屈な足取りで、自分の部屋へ向かい、彼の窓を開けてこれまでしてきたように一日に三度、声をあげて祈った。彼はししの穴に投げ込まれた。しかし、神はご自分のしもべを守るために、聖天使たちをつかわされた。」(サインズ・オブ・ザ・タイムズ1884年8月14日)

「ダニエルは、バビロン国の前でイスラエルの神が尊ばれなければならないことを知っていた。彼は王も貴族も、自分と自分の神に対する自分の義務の間に立ち入る権利はないことを知っていた。彼はすべての人の前で、勇敢に自分の宗教的な諸原則を維持しなければならないことを知っていた。そこで、彼はこれまで常としてきた通り、あたかも法令が発布されていないかのように、祈ったのであった。」(ユース・インストラクター 1900 年 11 月 1 日)

「真の祈りは、魂の精力を必要とし、生活に作用する。このように自分の必要を神のみ前に注ぎだす人は、天の下の他のそれ以外のすべてのものの虚無を感じる。」 (福音宣伝者 36) 木曜日 3月31日

5. 祈り、恵みの効果的な手段

a. わたしたちはどのぐらいしばしば祈るべきですか (テサロニケ第一 5:17; ルカ 21:36)。

「祈りとは、友だちに語るように、心を神に打ち明けることである。これはなにもわたしたちがどんなものであるかを神に知らせる必要があるからではなく、わたしたちが神を受け入れるのに必要だからである。祈りは、神をわたしたちにまで呼びおろすのではなく、わたしたちを神の許へひき上げるのである。

イエスは、この世においでになったとき、でしたちに祈る方法をお教えになり、毎日の必要を神に求め、どんな心配事もみな神に任せるようにお教えになった。そして、かれらの祈りは必ず聞かれるという保証をお与えになったが、それはまた、わたしたちに対する保証である。」(キリストへの道 126, 127)

b. 誠実に主を求める人々に何が約束されていますか (マタイ 7:7-11; 詩篇 145:18, 19)。

「力ある祈りのもう一つの要素は信仰である。『神に来たる者は、神のいますことと、ご自身を求める者に報いて下さることとを、必ず信じるはずだからである。』(ヘブル 11:6)。イエスも『なんでも祈り求めることは、すでにかなえられたと信じなさい。そうすれば、そのとおりになるであろう』(マルコ 11:24)とでしたちに仰せになった。わたしたちは、み言葉をこの通り受け入れているであろうか。...

わたしたちの祈りが聞かれないように見えるときも、み約束にかたく頼らねばならない。なぜならば、祈りが答えられるときが必ずきて、わたしたちが最も必要とする祝福を受けることができるからである。」(同上 131, 132)

c. わたしたちの祈りはどのような条件に基づいて答えられますか (ヨハネ 15:7; ヨ ハネ第一 5:14, 15)。

金曜日 4月1日

個人的な復習問題

- 1. どのようにわたしの態度が教会において伝道の成功を妨げているでしょうか。
- 2. どのようにわたしは兄弟たちとの調和を深めるために道を開くことができますか。
- 3. なぜ神のみ言葉は生活を変えるのに非常に強力なのでしょうか。
- 4. イエス、ダニエル、ダビデの祈りの生活の強さを述べなさい。
- 5. わたしの祈りの生活の質に改革を起こすために何ができますか。

教会内の分裂

暗唱聖句:「さて兄弟たちよ。わたしたちの主イエス・キリストの名によって、あなたがたに勧める。みな語ることを一つにして、お互の間に分争がないようにし、同じ心、同じ思いになって、堅く結び合っていてほしい。」(コリント第一1:10)

「キリストは民を導いておられる。そして彼らを信仰の一致へと導き入れておられる。それは、ご自分が御父と一つであられるように、彼らが一つになることができるためである。意見の相違は譲らなければならない。こうして全員が体への一致へ入ることができ、また一つの思い、一つの判断を持つことができるためである。」(教会への証 1 巻 324)

推奨文献: 患難から栄光へ上巻 300-301, 322-328

□曜日 4月3日

- 1. コリントにおける深刻な分裂
- a. パウロはコリントの教会からどのような不穏な知らせを受けましたか (コリント第 1:11, 12)。

「教会が分裂していることを彼に語った。アポロが訪問したときに起こった紛争が、いよいよ激しさを増していた。にせ教師たちが、パウロの教えを軽蔑するように信者たちを仕向けていた。福音の教理と儀式が曲解されていた。かつては熱心なクリスチャン生活を送っていた人々のあいだに、高慢と偶像礼拝と官能主義が、ますますふえひろがっていた。」(患難から栄光へ上巻 324)

b. 主は教会において分裂を引き起こす人々をどのようにお考えになっておられますか (箴言 6:16 - 19; ローマ 16:17, 18)。

「世のどの時代においても、自分たちには主のためになすべき働きがあると思いながら、主がお用いになってきた人々には何の敬意も示さない人々が存在してきた。彼らは聖句を正しく適用せず、自分自身の意見を支持するために聖書を曲解する。」(この日を神と共に 172)

2. 分裂の解決法

a. パウロはコリントの分裂した信者たちにどのような解決法を提示しましたか (コリント第一1:17, 18)

「福音宣伝の範囲は世界的なものでなければならなかった。十字架の使命者たちはクリスチャンの一致のきずなで結ばれ、こうして彼らが、神にあってキリストと一つであるということを世に示さないかぎり、彼らの大切な使命を達成することは望めなかった。」(患難から栄光へ上巻 92)

b. キリストの十字架についてパウロはなんと言いましたか (コリント第一 1:18 — 24)。

「カルバリーの十字架は力強く、なぜわたしたちが現在キリストを愛すべきかという理由、またあらゆることにおいて、主を第一に、そして最善として、そして究極として考えるかという理由を提供する。わたしたちは十字架の足元にくずおれたざんげのためにふさわしい場所を占めるべきである。わたしたちはカルバリーの山に登り、十字架を見上げ、苦悩のうちにあるわたしたちの救い主を見、瀕死の神の御子、不義の者のための義なる方を見る時、心の柔和と謙遜の教訓を学ぶことができるのである。…見よ、カルバリーの十字架を見上げよ。あなたのために苦しまれる王の犠牲をながめよ。」(彼を知るために65)

c. パウロの栄光はどこにありましたか (ガラテヤ 6:14)。

「神の御子はパウロが犯した罪のために死ななければならなかった。彼のために、彼を永遠の破滅から救うために、十字架上で血が流された。キリストの尊い血には非常に大きな価値があるので、有罪の魂のために完全な贖罪をなすことができた。そしてこれこそ、彼の『栄光』であった。彼が贖い、罪の許しを得たのは、キリストの血を通してであった。」(サインズ・オブ・ザ・タイムズ 1890 年 11 月 24 日)

「われわれは、天のみ父が無限の愛をもってわれわれを愛してくださっていることを、十字架によって学ぶのである。『わたし自身には、わたしたちの主イエス・キリストの十字架以外に、誇とするものは、断じてあってはならない』とパウロが叫んだのは、当然である(ガラテヤ 6:14)。十字架を誇りとし、われわれのためにご自身をお与えになった主にわれわれを全くささげることは、われわれの特権でもある。その時に、カルバリーの十字架から流れる光を顔に受けて、この光を暗黒にある者たちへ現すために出かけて行くことができるのである。」(患難から栄光へ上巻 226)

- 3. 神の知恵 対 世の知恵
- a. 多くの人の主な目的はなんですか (エレミヤ 9:23)。 それとは対照的に、わたしたちすべての者のための神のご目的はなんですか (エレミヤ 9:24)。
- b. パウロはどのようにして人間の「知恵」と神の知恵を明確に対比させていますか(コリント第一 1:20 25)。

「このような指導者一天から追放された天使一と共に、これらの地上のいわゆる賢者たちは、人々の思いを夢中にさせる魔法のような理論を偽造するかもしれない。パウロはガラテヤ人に次のように言った、『真理に従わないようにと、いったい、だれがあなたがたを惑わしたのか』(ガラテヤ 3:1 欽定訳)。サタンはみごとな頭脳を持っており、彼が人間を高め、彼らを神にまさる誉れでおおうために働くことができるように選んだ代理人を持っている。しかし、神は力をまとっておられる。このお方は罪過のうちに死んでいる人々をとりあげて、イエスを死人の中からよみがえらせた御霊の働きによって、人間の品性を変え、魂に失われた神のみかたちを戻すことがおできになる。イエス・キリストを信じる人々は、神の戒めに対する反逆者である状態から従順なしもべでありご自分の御国の臣民に変えられる。彼らは新しく生まれ、再生され、真理を通して聖化される。この神の力を、懐疑者たちは認めない。そして彼は自分の有限な能力の領域の下に証拠がもたらされるまでは、一切の証拠を拒むのである。彼は神の律法をわきに置き、エホバの力の限界を規定しさえするのである。〔コリント第一1:20-24 引用〕。」(クリスチャン教育の基礎 332, 333)

c. わたしたちはどのように唯一本当の知恵を見出すことができますか (コリント第一 1:30, 31; コロサイ 2:3)。

「キリストの中には『知恵と知識との宝が、いっさい隠されている』(コロサイ2:3)。キリストは、『わたしたちの知恵となり、義と聖とあがないとになられたのである』(コリント第一1:30)。キリストの中には、現世だけでなく、来世の人間の魂の必要とかわきを満たすものが、すべて備わっているのである。あがない主は、実に高価な真珠である。他のものは全く比較にならないほど価値がないのである。」(キリストの実物教訓92,93)

4. 真の知恵の原則

a. 神の知恵の基本原則は何ですか (箴言 1:7)。

「聖句の一節には、一万もの人の考えや議論以上の価値がある。神の道に従うことを拒む人々は、ついに『行ってしまえ』との宣告を受けるようになる。しかし神の道に従うとき、主イエスはわたしたちの思いを導き、わたしたちのくちびるを保証で満たしてくださる。わたしたちは主にあって、またこのお方の全能の力において強くなることができる。キリストを受け入れることによって、力をまとうのである。内に宿られる救い主は、ご自分の力をわたしたちの財産としてくださる。真理が取引におけるわたしたちの蓄えとなる。不義が生活に見られることはない。わたしたちは真理を知らない人々へ時に応じた言葉を語ることができる。心の中のキリストのご臨在こそ、命を与える力であり、存在全体を強めるのである。」(教会への証7巻71)

b. どのようにイエスは (ここでは知恵として引用されている) わたしたち一人一人に ご自分の嘆願に注意を払うように警告しておられますか (箴言 1:20-23)。

「世の救い主は、永遠の命の賜物を過ちを犯している者に差し出される。このお方はご自分の愛と許しの提供に対する反応を、気まぐれな悔い改め苦しむ息子を許すように地上の親の心を動かす優しい同情にもまさる同情をもってご覧になっている。このお方はさまよう者の後を追って、『わたしに帰れ、わたしはあなたがたに帰ろう』と叫んでおられる。もし罪人が、自分の後ろから優しい同情の愛をもって呼びかける憐れみの御声に注意を払うことをなお拒むならば、その魂は闇の中に取り残されるであろう。もし彼が自分に提示された機会をなおざりにし、自分の悪の道を進み続けるならば、神の怒りは、思ってもみなかった瞬間に、彼の上に突如として臨むのである。」(同上4巻207,208)

c. 知恵 (イエス) は、子供たちや青年たちにどのように語りかけておられますか (箴言 2:1-6)。

「キリストの精神をもって、聖書を探究するものには、必ず報いが与えられる。人が幼児のようにすなおな態度で教えを受け、神に絶対的に服従するならば、神のことばの中に真理を見いだすことができる。人びとが従順になるときに、神の政府の計画を理解することができるようになるのである。…というのは、真理の探究は、人間を高めるからである。贖罪、キリストの受肉、キリストの贖罪の犠牲などの神秘は、現在のようなばく然としたものではなくなる。このような問題に対して、わたしたちは、更に理解を深めるばかりでなく、その真価をより高く評価することができるようになる。」(キリストの実物教訓 90)

木曜日 4月7日

5. 主の栄光

a. 信仰による義認とは、何ですか (ローマ 3:21-24)。

「悔い改めた罪人が、神のみ前に悔いて、自分のためのキリストの贖罪を認め、この贖罪をこの世の生活と将来の生活における唯一の希望として受け入れるとき、彼の罪は許される。これが信仰による義認である。すべての信じる魂は、自分の意志を完全に神の意志に一致させ、悔い改めと悔悟の状態にいつづけ、贖い主の贖罪の功績を信じる信仰を働かせ、力から力へ、栄光から栄光へと進まなければならない。」(信仰と行い103)

「信仰による義認とは何か。それは人の栄光をちりに伏させ、人が自分の力で自分のためにできないことを、人のためになしてくださる神の働きである。人が自分自身が無であることを認めるとき、キリストの義でおおわれる準備ができる。彼らが神を賛美し、日もすがら神を高めはじめるとき、そして眺めることによって、このお方と同じ姿へ変えられていく。再生とは何であろうか。それは人に自分自身の本当の性質を明らかにすること、すなわち自分自身には価値がないことを明らかにすることである。」(特別な牧師への証 A シリーズ 9 巻 62)

b. どのようにわたしたちの日常の生活の中で神の栄光を表すことができますか (コリント第二 3:18)。

「コリントの信者たちは、神の事柄に関して、より深い経験が必要であった。彼らは、神の栄光を見つめて、品性が徐々に変えられていくということが、どんなことなのか十分に知らなかった。彼らは、その栄光のきざしをかいまみたに過ぎなかった。パウロが彼らに願ったことは、彼らが、神に満ちているもののすべてをもって満たされ、あしたの光のように現れる神を知り、ますます神のことを学んで、完全な福音信仰の真昼の輝きに到達することであった。」(患難から栄光へ上巻 331, 332)

金曜日 4月8日

個人的な復習問題

- 1. コリントに存在していた分裂から、わたしはどのような警告を受けるべきですか。
- 2. 十字架についてわたしたちが悟る必要のある重要な要点を、いくつかあげなさい。
- 3. 神の知恵よりも人間の知恵に焦点を当てることの危険性を説明しなさい。
- 4. なぜ神の知恵は非常に価値があるのでしょうか。
- 5. 神の民から輝く栄光を述べなさい。

教会内の不道徳

暗唱聖句:「それとも、正しくない者が神の国をつぐことはないのを、知らないのか。 まちがってはいけない。不品行な者、偶像を礼拝する者、姦淫をする者、男娼となる者、 男色をする者、盗む者、貪欲な者、酒に酔う者、そしる者、略奪する者は、いずれ も神の国をつぐことはないのである。」(コリント第一 6:9, 10)

「尊く厳粛なこの時代のためのメッセージ持っている者が、神は決してまどろむことも眠ることもなく、すべての行為をご覧になり、思いのすべての思想をお読みになることを知りながら、不純な思想や汚れた行いにふけることができるだろうか。ああ、神が神の民だと公言する人々のためにほとんどなにもおできにならない理由は、彼らのうちに見いだされる悪のためである。」(牧師への証 430, 431)

推奨文献: 彼を掲げよ297

日曜日 4月10日

- 1. 世の道徳的状態
- a. 終わりの日についてパウロはどのような悲しい絵を提示しましたか (テモテ第二 3:1-5)。

「あふれる悪は不信者やあざける者たちのあいだにとどまってはいない。もしそうであればと願うが、そうではないのである。キリストの宗教を公言する多くの男女が有罪である。このお方の来臨を待ち望んでいると公言するある人々でさえ、サタンほどにもその出来事に対して準備ができていない。彼らはあらゆる汚れから自らを洗い清めていない。彼らは長らく自分の欲に仕えてきたので、彼らの思想が不順で、想像が堕落しているのは、自然なのである。」

(健康についての勧告 615)

b. 神の驚くべき恵みを通して、誰が神を見ることができるでしょうか (マタイ 5:8)。

「『心の清い人たちは、さいわいである』とのイエスの言葉は、もっと深い意味をもっている。単に世が純潔と考える意味での純潔一 肉体的なものにとらわれず、情欲に汚れていない一 を言うのでなく、心のかくれた目的や動機において真実であり、誇りや利己主義から解放され、謙そんで、無我で、幼な子のような者であることを意味する。」(祝福の山 30,31)

- 2. コリント
- a. コリントの町は道徳に関して、どのぐらい悪名高かったでしょうか。

「パウロは、この交通の大通りで働きを始めようとした最初から、彼の働きの進展を妨げる深刻な障害を見た。町全体が偶像礼拝にささげられていたのである。ビーナスは気に入りの女神で、ビーナスを拝むことには、さまざまな風紀を乱す慣習や儀式が伴っていた。コリント人は、異教徒たちの中でさえも、みだらな不道徳行為のために目立つ存在であった。彼らは一時的な快楽や歓楽以外、ほとんど何も考えず、気にかけもしないようであった。」(患難から栄光へ上巻 262, 263)

b. コリントの教会は異教徒に囲まれた環境によってどれほど深刻な影響を受けましたか (コリント第一 5:1, 2)。

「パウロが去ったあと、情勢が思わしくなくなった。敵のまいた毒麦が、麦の中に出て来た。そして、まもなく、毒麦は悪い実を結び始めた。これはコリントの教会にとって、激しい試練の時であった。彼らの熱意を奮いたたせ、神と一致した生活を送るように彼らを助ける使徒パウロは、もういなかった。そして、多くの者は、徐々に、軽率と無関心におちいり、生来の好みと傾向のままに生活するようになった。純潔と高潔という高い理想に到達するようにと、幾度となく彼らに勧告を与えた者は、もう彼らと共にいなかった。そして、改心した時に悪習慣を捨て去った者の多くが、また、異教の堕落的な罪に逆もどりした。」(同上323)

c. 使徒パウロは不道徳な人に関してなんと宣言しましたか。また彼はどのように、 公に律法を犯す人を教会員としての交わりから取り除くべき理由を提示しましたか (コリント第一5:3-8)。

「パウロは、短い手紙を教会に送って、不品行をやめない人々とは『交際してはいけない』と勧告した。しかし、多くの信者は、パウロの真意を曲解し、彼の言葉に対して、勝手な理屈を言って、その教えを無視する口実にした。」(同上 323, 324)

3. 確実に分離する必要性

a. 神の子供たちが道徳的な汚れから解放されるための基本的な条件は何ですか(コリント第二 6:14–18)。同時に、キリストの福音をもってどのように人々に手を差し伸べることができますか。

「ヘブル人が神の律法を犯すようにいざなわれ、民族に神の刑罰をもたらすことに なったのは、偶像礼拝者と交わり、彼らの歓楽に加わったためであった。そのよう に今も、キリストに従う者を不信心な者と交わらせ、その娯楽に加えることによって、 サタンは巧みに彼らを罪にさそい出す。『彼らの間から出て行き、彼らと分離せよ、 と主は言われる。そして、汚れたものに触れてはならない』(コリント第二 6:17)。 神は昔のイスラエルに要求なさったと同じように、今のご自分の民にも、風習と習 慣と原則において、この世とはっきり分離することを要求なさる。 神のことばが教え ることに忠実に従うなら、この区別は存在し、それはあいまいであることはあり得 ない。ヘブル人が異教徒に同化してはならないことを戒めた警告は、現在、不信心 な者の精神と風習に、クリスチャンが同調することを禁じている警告と同様に明白 なものであった。キリストはわれわれにこう語っておられる。『世と世にあるものとを、 愛してはいけない。もし、世を愛する者があれば、父の愛は彼のうちにない』(ヨ ハネ第一2:15)、『世を友とするのは、神への敵対であることを、知らないか。おお よそ世の友となろうと思う者は、自らを神の敵とするのである』(ヤコブ4:4)。キリ ストに従う者は罪人と分離し、善を行なう機会のあるときだけ彼らと交わるのでな ければならない。われわれを神から引き離す感化力を持つ人々との交わりを避ける については、どんなに断固とした態度を取っても取りすぎることはない。『わたした ちを試みに会わせないで』くださいと祈る一方、できるだけ誘惑を避けなければな らない (マタイ 6:13)。」 (人類のあけぼの下巻 72)

b. 教会において罪に対して開かれた中で生きる人々に関するパウロの指示は何ですか (コリント第一 5:9-13)。

「キリストの模範は聖さん式における排他心を禁じている。公然たる罪がある場合には、その罪人を加えてはならないことは事実である。このことは聖霊によってはつきり教えられている(コリント第一 5:11 参照)。しかしそれ以外には、だれも宣告をくだすべきではない。神は、このような式にだれを出席させるかを人が口にすることをおゆるしにならなかった。なぜなら、だれが心を読むことができるだろう。毒麦と麦の区別がだれにできるだろう。『だれでもまず自分を吟味し、それからパンを食べ杯を飲むべきである。』なぜなら『ふさわしくないままでパンを食し主の杯を飲む者は、主のからだと血とを犯すのである。・・・・主のからだをわきまえないで飲み食いする者は、その飲み食いによって自分にさばきを招くからである』(コリント第一 11:28, 27, 29)。」(各時代の希望下巻 136, 137)

4. 教会の懲戒

a. 過ちに関してどのような明確な指示が与えられていますか (箴言 25:8, 9; マタイ 18:15)。

「誤っている教会員を取り扱う際、神の民はマタイ 18 章に救い主によって与えられている指示に注意深く従わなければならない。…〔マタイ 18:15-18 参照〕。他の人に悪について語ってはならない。一人の人に語ると、そこから別の人に、さらに別の人にと、報告は絶えず発展していき、悪は増していき、ついには教会全体が苦しむようになる。問題は『彼とふたりだけの所で』解決しなさい。これが神のご計画である。…

あなたの兄弟にある罪をそのままにしてはならない。しかし、彼を暴いてはならない。こうして、譴責が復讐に見えるようにし、かえって困難を増し加えてはならない。彼を神のみ言葉にある述べられた方法に従って正しなさい。」(福音宣伝者498,499)

「〔マタイ 18:15 引用〕。 もしあなたがキリストの言葉を無視し、自分自身のともした火花の中を歩むなら、義を行うことはできない。そしてサタンの魅了する力の下に至るのである。」(レピュー・アンド・ヘラルト 1892 年 8 月 16 日)

b. もし最初の段階で解決しなかった場合、そしてただその場合のみ、誤った教会員 を回復させる過程において、何が次の段階ですか (マタイによる福音書 18:16)。

「あなたと共に、霊的な思いを持った人々を連れて行き、過ちに陥っている人とその悪について語りなさい。彼は自分の兄弟たちの一致した訴えに譲るかもしれない。彼がこの問題において兄弟たちが一致しているのを見るとき、彼の思いが啓発されるかもしれない。」(福音宣伝者 500)

c. 最初の二つの段階が失敗した場合に限り、過ちにある者に関する次の段階は何ですか (マタイ 18:17, 18)。

「『もし聞いてくれないなら』、そのとき何がなされるべきだろうか。役員会議において数名が誤っている者を除名する責任を負うべきであろうか?『もし彼らの言うことを聞かないなら、教会に申し出なさい』。教会が教会員に関して行動を起こすようにしなさい。…

もし彼が教会の声に注意を払わないならば、もし彼が自分を更生させるためのあらゆる努力を拒むならば、教会には、彼を教会の交わりから分離させる責任がある。彼の名前は名簿から削除されるべきである。」(同上 500, 501)

5. 教会の懲戒(続)

a. コリントの教会が公に断固として公の悪に対処した方法から何を学ぶべきでしょうか (コリント第一 5:12, 13)。

「キリストから与えられた指示に忠実に従うまでは、どの教会役員も、どの委員会も、悪を行った人を教会名簿から取り除くように勧告したり、推薦したりしてはならない。これがなされたとき、教会は神のみ前に責任を果たしたのである。」(福音宣伝者 501)

「キリストが与えて下さった一つ一つの詳細が、真のクリスチャン精神において実行されたとき、そのとき、そしてそのとき初めて、天は教会の決定を批准する。なぜなら、その教会員たちはキリストの思いを持っており、このお方が地上におられたならばなさったはずのことをしたからである。」(セレクテッド・メッセージ3巻22)

「教会における罪と罪人たちは、すみやかに取り扱われなければならない。他の人々が汚されないためである。…

教会の各教会員が、柔和で心のへりくだった救い主に真に従う者として行動するとき、罪をおおい隠し、言い訳することはなくなる。すべての人は神のみ前にいるかのように、行動するために奮闘する。」(教会への証 5 巻 147)

「公然とした罪を犯して悔い改めないものは、教会から除外しなければならないことは、キリストが明らかに教えておられるところであるが、人の品性や動機までさばくことは、わたしたちにまかせられていないのである。キリストは、わたしたちの性質をよく知りぬいておられるから、こうしてさばくことはおまかせにならない。もしわたしたちがにせクリスチャンであると思う人びとを教会から引き抜こうとするならば、必ずまちがいをするにきまっている。キリストがご自分に引き寄せておられるたいせつな人びとを、わたしたちは全く見込みのない者だと考える危険がある。わたしたちが、自分たちの不完全な判断に従って、これらの魂を扱おうとするならば、おそらく彼らの望みの綱を絶ち切ってしまうことであろう。自分こそクリスチャンであると思っている者の多くが、最後には、量が不足していることに気づくことであろう。隣人たちからは、全然天国にはいれるとは思われなかった人びとが、多く天国にはいることであろう。人は外の形によって判断し、神は心を評価なさるのである。」(キリストの実物教訓 49,50)

金曜日 4月15日

個人的な復習問題

- 1. 主がわたしたち一人一人に植え付けたいと望んでおられる純潔の深さを述べなさい。
- 2. なぜ神の律法への公然たる違反は深刻に取り扱われなければならないのでしょうか。
- 3. 罪深い行動に対処するとき、わたしたちの目的は何であるべきですか。
- 4. だれかが悪を行っているのを見たら、わたしの態度と行動は、どのようであるべきですか。
- 5. いつ教会の懲戒、またもしかしたら除名が必要ですか。

兄弟間の訴訟

暗唱聖句:「あなたがたは知らないのか、わたしたちは御使をさえさばく者である。 ましてこの世の事件などは、いうまでもないではないか。」(コリント第一 6:3)

「聖徒たちは世をさばくべき者である。そうであれば、彼らは自分たちの難問を解決するために、世に、あるいは世の法律家たちに頼るべきであろうか。神は彼らが自分たちの問題を決定するために敵の臣下に持っていくことを望まれない。わたしたちは互いに信頼を持とう。」(セレケテッド・メッセージ 3 巻 303)

推奨文献: セレクテット・メッセーシ 3巻 299-305

日曜日 4月17日

1. 悪人の裁き

a. 失われた者の裁きはいつ行われますか (黙示録 20:2, 4; ペテロ第二 2:4)。 だれが彼らを裁きますか (コリント第一 6:2, 3)。

「第一と第二の復活の間の千年間に、悪人の審判が行なわれる。使徒パウロは、この審判を、再臨に続いて起こる事件として指し示す。『だから、主がこられるまでは、何事についても、先走りをしてさばいてはいけない。主は暗い中に隠れていることを明るみに出し、心の中で企てられていることを、あらわにされるであろう』(コリント第一4:5)。ダニエルは、日の老いたる者がきて、『いと高き者の聖徒のために審判をおこなった』と言っている(ダニエル書7:22)。この時義人は、王、また祭司として支配する。ヨハネは、黙示録の中で次のように言っている。『また見ていると、かず多くの座があり、その上に人々がすわっていた。そして、彼らにさばきの権が与えられていた。』『彼らは神とキリストとの祭司となり、キリストと共に千年の間、支配する』(黙示録20:4,6)。パウロが、『聖徒は世をさばく』と予見したのは、この時のことを指しているのである(コリント第一6:2)。彼らはキリストと共に悪人を審き、その行為を法規の書すなわち聖書と照らし合わせ、それぞれのなしたわざに従って、すべての者に判決を下す。その時、悪人は、それぞれのわざに応じて、受けねばならない苦しみが定められる。そして、それが、死の書の彼らの名のところに記録される。

サタンと悪天使たちも、キリストとその民によってさばかれる。……また、ユダは、『主は、自分たちの地位を守ろうとはせず、そのおるべき所を捨て去った御使たちを、大いなる日のさばきのために、永久にしばりつけたまま、暗やみの中に閉じ込めておかれた』と言っている(ユダ 6)、(各時代の大争闘下巻 444, 441)

2. クリスチャンの間の論争

a. 教会の問題はどこで解決されるべきですか (コリント第一 6:4, 5)。

「聖徒たちは世をさばくべき者である。そうであれば、彼らは自分たちの難問を解決するために、世に、あるいは世の法律家たちに頼るべきであろうか。神は彼らが自分たちの問題を決定するために敵の臣下に持っていくことを望まれない。わたしたちは互いに信頼を持とう。」(セレクテッド・メッセージ3巻303)

b. パウロからの叱責を引き起こしたコリントの教会で何が起こったのですか (コリント第一 6:1, 2, 6)。主はこの行為をどのようにお考えになりますか。

「世と改心していない教会員は同調している。ある人々は神が自分たちを譴責なさる時に自分自身の道を行きたがり、世を自分たちの頼みとし、教会の問題を決定するために世の前に持ち出す。そのとき、衝突と紛争があり、キリストがあらたに十字架につけられ、公に辱められる。これらの世の法廷に訴える教会員たちは、自分たちの判断として世を選んだことを示し、彼らの名は天で不信者と共にいる者として登録される。世はどれほど熱心に聖なる信任を裏切る人々の言葉をとらえることであろう!…

法の力により頼むことは、クリスチャンにとって恥辱である。それでありながら、この悪は主の選民の間に持ち込まれ、大切にされてきた。世俗的な諸原則が密かに持ち込まれてきた。わたしたちの働き人の多くが実際にラオデキヤの人々のように一二心に一なってきている。なぜなら、あまりにも弁護士と法律文書と法的な契約に頼っているからである。このような事態は神に忌み嫌われる。」(同上3巻302,303)

c. 教会員の間の問題の解決法はどこにありますか (コリント第一 6:7 - 11; ヨハネ 第一 1:7, 9; 箴言 28:13)。

「神のあわれみをうける条件は簡単で、しかも正しく合理的である。神は、わたしたちの罪がゆるされるには、なにか面倒なことをしなければならないとは要求なさらない。長途の巡礼の旅に上ったり、痛々しい苦行をしたりして、天の神に自分がよく思われようと思ったり、罪の償いをしようとしなくてもよいのである。ただ罪を言い表わして、これを離れる者はあわれみをうけるのである。」(キリストへの道 45)

3. 肉欲に対する警告

a. わたしたちの創造の主な目的は何でしたか (イザヤ 43:7)。

「いまでもすべての被造物は、神の完全さについて栄光を告げている。人間の利己心よりほかには、自分だけのために生きているものは何もない。空中を飛ぶ鳥も、地上を動きまわる動物も、すべて何かほかの生命のために奉仕している。どんな森の木の葉もどんな小さな草の葉も、それぞれ奉仕している。どの木もどの植木もどの葉も、人間や動物が生存するのになくてはならない生命の要素を出している。そしてこんどは人間と動物が、木や植木や葉の生命に奉仕するのである。花はかおりを放ち、その美しさをあらわして世の人々の祝福となる。太陽は光を放ってもろもろの世界をよろこばせる。海はすべての泉のみなもとであるとともにまたすべての土地の水の流れを受け入れるが、それは与えるために受けるのである。海面から立ちのぼる霧は、地から芽が出るように、土地をうるおすために雨となってくだる。」(各時代の希望上巻 2, 3)

b. パウロは信者の体をどのように考えましたか (ローマ 6:13, 15, 19, 20)。

「輝く聖なるセラフから人間にいたるまで、すべての被造物が創造主の内住される宮となることが、永遠の昔から神の目的であった。罪のために人類は神の宮とならなくなった。人の心は、悪のために暗くなり、けがれたものとなったので、もはや聖なる神の栄光をあらわさなくなった。しかし神のみ子の受肉によって天の神の目的は達成された。神は人類の中にお住みになり、救いの恵みを通して、人の心はふたたび神の宮となる。」(同上 186)

c. わたしたちは神の財産であるので、わたしたち一人一人は自分の体に関して何を 理解すべきでしょうか (コリント第一 3:16, 17; 10:31)。

「神の霊に感動させられて、使徒パウロは『何事をするにも』、すなわち飲食のような生来の行動でも誤った食欲を満足させるためでなく、責任を感じ出て『すべて神の栄光のためにすべきである』と記している。人間のすべての部分に注意を払わなければならない。胃に入れる物によって、高く清い思想を心から追い払わないように注意しなければならないのである。」(食事と食物に関する勧告 52)

4. 道徳的純潔

a. わたしたちの体は聖霊の宮であるので、それに関するわたしたちの道徳的責任は何ですか (コリント第一 6:15-18)。

「すべてのクリスチャンは自分たちの情欲を制し、原則によって支配されることを 学ばなければならない。そうしないかぎり、彼はクリスチャンの名にふさわしくない。」 (教会への証2巻347)

「道徳的な原則は、厳密に実行されるとき、魂の唯一の防壁となる。もし食事がもっとも単純な種類のものになるべき時があるとすれば、それは今である。…食物が熱っぽくなければその分だけ、情欲を制しやすくなる。身体的、知的、また道徳的健康に関係なく、嗜好を満足させることを求めるべきではない。…

神はあなたに正しく扱い、ご自分の奉仕と栄光のために最善の状態に保つよう住まいを与えてこられた。あなたがたの体は自分自身のものではない。『あなたがたは知らないのか。自分のからだは、神から受けて自分の内に宿っている聖霊の宮であって、あなたがたは、もはや自分自身のものではないのである』。」(同上352,353)

b. 何が道徳的純潔ですか、そしてそれをどのように首尾よく実践することができますか (コリント第二 7:1; テサロニケ第一 4:3-5)。

「わたしたちは自分の思想を正しく統御することに高い価値をおく必要がある。なぜなら、そのような統御が、主人なるお方に調和して働くために思いと魂を整えるからである。この世の生活において、わたしたちの平安と幸福のためには、わたしたちの思想がキリストに集中することが必要である。人の考えることが、その人そのものである。わたしたちが道徳的な純潔において向上するかは、正しく考え、正しく行動することにかかっている。…

邪悪な思いは魂を滅ぼす。神の改心させる力は心を変え、思想を精練し、純潔にする。思想をキリストに集中させ続けるために断固とした努力がなされないかぎり、恵みはそれ自体、生活の中に現れることができない。思いは霊的な戦いにたずさわらなければならない。一つ一つの思想がキリストの従順へととりこにされなければならない。すべての習慣は、神の支配下におかれなければならない。

わたしたちは純潔な思想の高尚にする力と邪悪な思想のそこなう感化力を絶えず 自覚する必要がある。自分たちの思想を聖なることがらにとどめようではないか。 それらが純潔で真実であるようにしよう。なぜなら、魂のための唯一の安全は、正 しく考えることだからである。わたしたちは自分の思想を統治し育成するために、神 が手の届くところへ置いてくださったあらゆる手段を用いるべきである。」(思い、品 性、そして個性1巻235) 木曜日 4月21日

5. 自己放縦に対する勝利

a. どのようにパウロはクリスチャンの競争を描きましたか (コリント第一 9:25)。

「パウロは、コリントの信者たちの心に、堅固な自制心と厳格な節制、そしてキリストに仕えるゆるがぬ熱意の大切さを、はっきり刻みつけたいと願って、彼らにあてた手紙の中で、クリスチャンの戦いと、コリントの近くで、定期的に開催された有名な競走とを、印象的に比較した。競走は、ギリシヤ人とローマ人が始めたあらゆる競技のうちで、最も古く、最も重んじられたものであった。王侯、貴族、政治家たちが列席してそれを見守った。富と地位を持った青年たちが競走に参加し、賞を得るために必要などんな努力や訓練をもいとわなかった。

競走は、厳しい規則に従って行われ、それに対して不服の申し立てはできなかった。賞をめざして競走に参加したいと望む者は、まず、厳格な準備訓練を受けねばならなかった。食欲にふけること、あるいはそのほか、精神的肉体的活力を低下させるような楽しみは、すべて堅く禁じられた。強さと速さを競うこうした試合に勝利しようと望む者は、その筋肉が強く、柔軟で、神経は十分な抑制の下になければならなかった。すべての行動が確実で、その一歩一歩は、迅速で確かなものでなければならなかった。肉体の能力は、最高の標準に到達しなければならなかった。」(患難から栄光へ上巻 333, 334)

b. 何人が賞を勝ち取るかについてパウロは何と言っていますか(コリント第一9:24)。

「条件に従った者は、競走の終わりにおいて、だれひとりとして失望におちいることはない。真剣に耐え忍ぶ者は、ひとりとして失敗することはない。それは、いちばん速い者のための競走ではなく、いちばん強い者のための競争でもない。最も強い聖徒とともに最も弱い聖徒も、永遠の栄光の冠を受けるのである。すべて、神の恵みの力によって、自分たちの生活をキリストのみこころに一致させる者は、勝利するのである。」(同上337)

金曜日 4月22日

個人的な復習問題

- 1. 一千年の間の贖われた者たちの働きを述べなさい。
- 2. 教会の問題を対処する方法を改善するためにわたしは何ができますか。
- 3. どのように、わたしはよりよく自分の体によって神に栄光を帰すことができますか。
- 4. 今日のクリスチャンは第七条について何を知る必要がありますか。
- 5. どのようにわたしは純潔さの戦いにおいて勝利することができますか。

結婚に関する諸原則

暗唱聖句:「すべての人は、結婚を重んずべきである。また寝床を汚してはならない。 神は、不品行な者や姦淫をする者をさばかれる。」(ヘブル 13:4)

「婚姻関係に関する神の原則をわきまえ、それに従うときに、結婚は祝福である。 それは、人類の純潔と幸福を守り、人間の社会的必要を満たし、肉体的、知的、 道徳的性質を高める。」(人類のあけぼの上巻 21)

推奨文献: ローマ 7:1-3; コリント第一7章全体

日曜日 4月24日

1. 男と女

a. 神はいつ最初の結婚を祝われましたか (創世記 1:27; 2:21, 22)。

「神は、最初の結婚をとり結ばれた。だから、結婚式の制定者は、宇宙の創造主である。『結婚を重んずべきである』(ヘブル 13:4)。それは、神が人間にお与えになった最初の賜物の一つであった。また、それは、堕落後、アダムが楽園の門から持って出た二つの制度のなかの一つである。」(人類のあけぼの上巻 21).

b. イエスはどのような時にご自分の最初の奇跡を行われましたか (ヨハネ 2:1-10)。

「イエスは、エルサレムのサンヒドリンの前で何か偉大な働きをすることによってその公生涯をお始めにならなかった。ガリラヤの小さな村のある家族的な集りで、結婚の宴によろこびをまし加えることにイエスの力がそそがれた。こうしてイエスは人々と思いを一つにし、人々の幸福に役立ちたいという願いを示された。イエスは、試みの荒野で、ご自分から苦悩のさかずきをお飲みになった。そして、人々に祝福のさかずきを与え、ご自分の祝福によって人間生活のきずなを聖なるものにするために出ておいでになった。」(各時代の希望上巻 165)

「イエスは、弟子たちといっしょに出席された最初の祝宴で、彼らの救いのためになされる働きを象徴するさかずきを彼らにお与えになった。最後のばんさんにおいて、イエスは『主がこられる時に至るまで』ご自分の死を示す聖なる儀式を制定されたことによって、もう一度そのさかずきを彼らにお与えになった。」(同上 173)

2. 離れることと結び合うこと

a. 幸せな結婚のために書かれた神聖な原則は何ですか (創世記 2:24)。

「各家庭はそれぞれ神聖なわくの中にあって、それはこわしてはならぬものである。このわくの中には他人はだれも入る権利がない。夫も妻も自分たちだけのものである信頼を他人に与えてはならない。お互いに愛を強制することなく、かえって愛を与えるべきである。自分の中にある最高の品性を養育し、互いに相手の長所をすみやかに認めるようにしなさい。」(信仰によってわたしは生きる 252)

b. どのように二人の異なる人々が完全に調和して生きることができますか (コロサイ 1:27, 28)。

「神のみこころが行なわれているなら、夫と妻は互いに尊敬し合い、愛と信頼を養い育てる。家庭の平和と一致をそこなうものはどんなものでもきびしく押え、愛と親切をはぐくまなければならない。やさしさ、忍耐、愛の精神を表わす人は、同様の精神が自分に示されることを知るであろう。神のみたまが支配しているところでは、結婚関係が不適合であるという話はおきない。栄光の希望であられるキリストがほんとうに心の中に形づくられているなら、家庭には一致と愛がある。妻の心に住むキリストは、夫の心に住むキリストと協調する。夫も妻も、キリストが自分を愛する者のために備えに行かれた家に行くために心を合わせて努力する。」(アドペンチスト・ホーム 123)

c. 家族関係を啓発するために与えられたいくつかの追加的な原則は何ですか (エペソ 5:33)。

「お互に愛を強制することなく、かえって愛を与えるべきである。自分の中にある 最高の品性を養育し、互に相手の長所をすみやかに認めるようにしなさい。真価 を認められているという意識は驚くほどの刺激となり、満足感を与える。同情と尊 敬の念は卓越しようと努力する気持を強め、愛は一段と高い標準に達しようとする 気持を鼓舞しながら、愛自体も大きくなっていく。…

すべてのことにおいてキリストを最初とし最後とし、最高としなさい。キリストに対する愛が強くなるにつれ、相互の愛が清められ強くなる。」(ミニストリー・オブ・ヒーリング 333, 334)

3. 神は離婚を憎まれる

a. 結婚関係の永続性に関して主イエスによって宣言された基本的な原則は何ですか (マタイ 19:4-8)。

「パリサイ人が離婚の合法性について質問したとき、イエスは創造において制定されたものとして、結婚の制度に彼らの注意を向けられた。『モーセはあなたがたの心が、かたくななので、妻を出すことを許したのだが、初めからそうではなかった』とイエスは言われた(マタイ 19:8)。イエスは、すべてのものが『はなはだよかった』と神が仰せられ、祝福されたエデンの園の時代に彼らを注目させられた。神の栄光と人間の幸福のための二つの制度、すなわち結婚と安息日の起源がここにあった。その時、創造主は聖なる二人に結婚の契りを結ばせて、『人はその父と母を離れて、妻と結び合い、一体となるのである』と仰せになった(創世記 2:24)。創造主は世の終わりに至るまでのすべてのアダムの子らのために、結婚の律法を宣言された。永遠の父なる神ご自身がよしと宣言されたのは、人間にとって最高の祝福と発達の律法であった。」(祝福の山 79)

- b. 結婚における不誠実さに関して、神はマラキを通して何を宣言なさいましたか (マ ラキ 2:12–16)。
- c. 離婚する場合、主は使徒パウロを通してどのような指示をお与えになりましたか (ローマ 7:1-3; コリント第一 7:10-15)。

「もし妻が不信者であり、反対する者であるなら、夫は、神の律法に照らして、彼女をこの根拠だけで出してはならない。エホバの律法と調和するために、彼は彼女自身が離れることを選ぶのでない限り、彼女と共に住まなければならない。彼は反対に苦しみ、多くのやり方で圧迫され、悩まされるかもしれない。彼は神から自分の慰めと力と支えを見出すであろう。このお方だけがすべての危急時に恵みをお与えになることができる。彼は純潔な思いの人、真にゆるがない堅い原則の人であるべきである。そのとき、神は彼の行くべき道に関して知恵を与えて下さる。」(性的態度、姦淫、そして離婚に関する証 158, 159)

「今日も、キリストの時代と同様、社会のありさまは、この神聖な関係に関する 天の理想とは、あまりにもかけはなれた状態である。しかしながら、交わりと喜び を望んでいたにもかかわらず、苦さと失望を経験した人々に、キリストの福音は慰 安を与える。」(祝福の山 80, 81)

4. 回復の時代

a. 終わりの時代のご自分の民のための神のご目的は何ですか (イザヤ 58:12-14)。

「広く一般が真理と正義から離反しているときに、神の国の基礎である原則を回復しようとする人々のことを、預言者はここで描写しているのである。彼らは神の律法の破れを回復する人々である。すなわち神の律法は、神が選民を保護するために、彼らの周りに置かれた城壁であって、その正義、真理、純潔である戒めに従うことが、彼らを永久に保護するのである。…

終末時代に、神のすべての戒めが回復される。人間が安息日を変更したときにできた、律法の破れが回復される。神の残りの民は改革者として世の前に立ち、神の律法がすべての永続的改革の基礎であって、第四条の安息日は創造の記念であり、常に神の力を思い起こさせるものであることを、示さなければならない彼らは明白な言葉で、十誡のすべての戒めに服従する必要を示さなければならない。彼らはキリストの愛に動かされて、キリストと共に力を合わせて、荒れすたれた所を復興しなければならない。彼らは、破れを繕う者、市街を繕って住むべき所となす者、とならなければならないのである(イザヤ書 58:12 参照)。」(国と指導者下巻 277, 278)

- b. 第四条の安息日に加えて回復する必要のある他の二つの神聖な制度をあげなさい。それはなぜですか。
 - 1) 結婚 (創世記 1:26, 27; マタイ 19:9)。
 - 2) 元の食事 (創世記 1:29; イザヤ 22:12-14: 贖罪の日)。

「〔エデンでは〕神の栄光と人間の幸福のための二つの制度、すなわち結婚と安息日の起源がここにあった。」(祝福の山 79)

「今日、結婚関係はどうであろうか。それはゆがめられ、汚され、ノアの時代のようではないだろうか。離婚に次ぐ離婚が新聞で報告されている。これこそ、キリストが洪水前に彼らが『めとり、とつぎなどしていた』と言われたときの結婚である。」(原稿リリース7巻56)

「イエスは幸せな結婚、幸せな炉辺を見たいと思っておられる。」(天国で202)

「すべての人に推奨されるべき真の断食は、すべての刺激する種類の食物を断ち、健康によい単純な食物、すなわち神が豊かに備えてこられた食物を適切に用いることである。」(医事伝道 283)

5. 回復の時代(続)

a. 回復の過程において前後に何がありますか (使徒行伝 3:19-21)。

「『神が聖なる預言者たちの口をとおして、昔から預言しておられた万物更新の時』になっても、創造の安息日、すなわち イエスがヨセフの墓で休まれたこの日は、やはり休息とよろこびの日となるのである (使徒行伝 3:21)。救われた諸国の民が『安息日ごとに』よろこびの礼拝をもって神と小羊を拝するとき、天と地は声を合わせて賛美するのである (イザヤ書 66:23)。」(各時代の希望下巻 294)

「人がこの地上で何を食べ、飲むかについてはより少なく、天からの食物に関してはもっと多く考えるべきである。それは宗教経験全体を整え、活力を与える。」(医事伝道 283)

「最善の食物が何であるかを知るためには人間の食事に対する神の最初の計画を研究しなければならない。人間を創造し、その必要を理解しておられる神がアダムの食物を定め…られた(創世記 1:29)。……穀類、果実、堅果類、野菜が、わたしたちのために創造主のお選びになった食物である。」(家庭の教育 408)

「〔バプテスマのヨハネ〕はこの終わりの時代に生きている人々、神が民の前に提示すべき、キリストの再臨に道を備えるための神聖な真理を委ねてこられた人々を代表している。ヨハネは改革者であった。…

ヨハネは友人たちから、また生活の贅沢から、自ら離れた。彼の衣服の単純さ、ラクダの毛衣で織られた上着は、ユダヤ人の祭司たちや一般の人々の浪費や見せびらかしに対する永続的な譴責であった。彼の食事、すなわちいなご豆と野蜜という純粋な菜食は、食欲の放縦と至る所にまん延していた暴飲暴食に対する譴責であった。」(健康に関する勧告 72)

金曜日 4月29日

個人的な復習問題

- 1. 結婚についての聖書的な基準は何ですか。
- 2. 幸せな結婚の秘訣を説明しなさい。
- 3. 聖書は結婚が人生のためであることをどこで明らかにしていますか。
- 4. キリストがお戻りになる前に、エデンからのどのような重要な制度が回復されなければなりませんか。
- 5. わたしたちの働きはどのようにバプテスマのヨハネの働きと類似していますか。

第一安息日献金 世界のミッションのために

「万物の終わりは間近に迫っている。…わたしたちの救いの将は、『前進せよ、夜が来る、するとだれも働けなくなる』と言われる。」(今日のわたしの生涯 109)

永遠の福音を、バビロンの混乱によって 災いを受ける全世界に伝えるという任務こ そ、時代の召しです。これは、第三天使のメ ッセージを受け入れる一人びとりの人の聖な る義務です。なんという特権でしょう。しか し、なんとまだなされるべきことが多くあるこ とでしょう。



これを記しながら、万国郵便連合は、彼らの制度の中に191の国家と領域をあげています。そして国際連合は、世界中に195か国を認めています。これらの地上の多大な群衆のうち、どれくらいの人々が、自分の魂を救うことができる現代の真理をまだ受けていなことでしょうか。使徒はわたしたちに次のことを継げています。「あなたがたのうちには、神について無知な人々がいる。あなたがたをはずかしめるために、わたしはこう言うのだ。」(コリント第一15:34)「しかし、信じたことのない者を、どうして呼び求めることがあろうか。聞いたことのない者を、どうして信じることがあろうか。宣べ伝える者がいなくては、どうして聞くことがあろうか。」(ローマ10:14)。だれも真理を全世界に伝える備えはありません。しかし、聖霊の力のうちに、わたしたちは何かはできます。

「福音を受けた者はみな、世に伝える尊い真理をさずけられた。神の忠実な民は常に、彼らの財源を神のみ名をあがめるために用い、彼らの才能を神への奉仕に賢く用いた 積極的な伝道者であった。

キリストを受け入れた者はみな、同胞を救う仕事に召されているのである。……この 招待をせよとの命令は、すべての教会に出されたものである。

奉仕の精神が教会全体にゆきわたって、教会員が残らず各々の才能に応じて主のために働くのを、神は長いあいだ待っておられる。福音事業の任命を完成するために、神の教会の会員が、光の必要な自国や外国の伝道地で、それぞれ定められた働きをするならば、まもなく全世界に警告がゆきわたり、主イエスは力と大いなる栄光をもってこの世にもどってこられるのである。」(患難から栄光へ上巻115-116)

今日の世界のミッションのための第一安息日献金をもって、主がわたしたちの心を動かして下さり、わたしたちの惜しみない捧げものを通して、救いのすばらしい働きにおいて協力しなければならないとの一念を胸にはぐくむことができますように。

世界総会伝道支部

イスラエルの歴史からの教訓

暗唱聖句: 「これらの事が彼らに起ったのは、他に対する警告としてであって、それが書かれたのは、世の終りに臨んでいるわたしたちに対する訓戒のためである。」(コリント第一 10:11)

「今日サタンは、同じ悪を持ち込むために同じ策略を用いている。そして彼の努力には、イスラエルの時代に非常に多くの人を墓に横たわらせたのと同じ結果が続いている。」(レビュー・アンド・ヘラルド 1909 年 2 月 4 日)

推奨文献: コリント第一 10:1-11;

患難から栄光へ下巻 26-30

日曜日

5月1日

- 1. 悪をむさぼる結果
- a. イスラエル人はどのような悪をむさぼったのですか (コリント第一10:6)。

「神がイスラエル人をエジプトから導き出された時、カナンの地に清くて幸福かつ健康な民として定住させることがこのお方のご目的であった。…神は大々的に彼らから肉食を除かれた。シナイに到着する直前、彼らのやかましい要求に応じで肉を許可されたが、それは一日だけの事であった。神はマナと同様に、肉もたやすく供給することがおできになったが、彼らの益のために民を制限されたのである。エジプトで食べなれていた刺激的な食物よりも、彼らの必要により良く適合した食物を彼らに与える事が神のご目的であった。正常さを逸した食欲は、もっと健康な状態にされなければならなかった。それは人間のために最初供給された食物、すなわち神がアダムとエバにエデンでお与えになった地の産物を、おいしく食べることができるためであった。」(食事と食物に関する勧告 352)

b. 放縦のすみやかな結果は、何でしたか(民数記 11:4, 20, 31-34)。

「彼らの反逆的欲求は満たされたけれども彼らは、そのために苦しまなければならなかった。彼らは、食べたいだけ食べた。彼らの不節制は直ちに罰せられた。……多くの人々が熱病で倒れた。一方、彼らの中の最も罪深い人々は、彼らがほしがった食物を口にするやいなや、打たれた。」(人類のあけぼの上巻 457)

2. 偶像礼拝

a. イスラエル人はシナイにおいてどのような背教を悪化させましたか (出エジプト 32:1-6)。

『主の祭』をするという口実のもとに、彼らは飲食にふけり、みだらな騒ぎを演じた。

ヘブル人は、神の声に服従することを厳粛に神に誓ってから、まだほんの数日しかたっていなかった。彼らは恐れおののいて山の前に立ち、『あなたはわたしのほかに、なにものをも神としてはならない』という言葉に耳を傾けたのであった(民数記 20:3)。神の栄光は、まだシナイ山の上にただよっていて、会衆に見えていた。それなのに、彼らはそむいて他の神々を求めた。『彼らはホレブで子牛を造り、鋳物の像を拝んだ。彼らは神の栄光を草を食う牛の像と取り替えた』(詩篇 106:19, 20)。慈愛深い父、全能の王としてご自分をあらわされた神に対して、これ以上の忘恩を示し、これ以上の大胆な侮辱を加えることができるであろうか。」(人類のあけぼの上巻 372)

b. 刻んだ像がなくても、どのように今日わたしたちは偶像礼拝に巻き込まれる危険 性がありますか (出エジプト 20:3-6; ヨハネ第一 5:21)。

「永遠に自存し、創造されたおかたでなく、自らすべてのものの根源であって維持者であられる主だけが、最高の尊敬と礼拝をお受けになる資格がある。人間は、主以外のなにものをも第一に愛して奉仕することを禁じられている。神に対するわれわれの愛を減少させたり、神にささげるべき奉仕をさまたげるようなものを心にいだくときに、われわれはそれを自分の神としているのである。」(同上上巻 356)

「人間は長い間、人間の意見と人間の制度とを礼拝してきたために、ほとんど全世界が偶像に従っている。」(国と指導者上巻154)

「あなたがあわれみの使命を聞くことを拒むたびに、あなたは不信を強めているのである。あなたがキリストに心の戸を開かないそのたびに、あなたは、ますます、語っておられるお方の声を聞こうとしなくなる。ついにあなたはあわれみの最後の訴えに応答する機会をなくしてしまうのである。『エフライムは偶像に結びつらなった。そのなすにまかせよ』と、古代イスラエルについて書かれたように、あなたについて書かれないようにしなさい(ホセア書 4:17)。キリストがエルサレムのために泣かれたように、あなたのために泣かれることのないようにしなさい。そのときイエスはこう言われた、『ちょうどめんどりが翼の下にひなを集めるように、わたしはおまえの子らを幾たび集めようとしたことであろう。それだのに、おまえたちは応じようとしなかった。見よ、おまえたちの家は見捨てられてしまう』(ルカ 13:34, 35)。」(キリストの実物教訓 217, 218)

3. 不道徳

a. バアル・ペオルでイスラエルが陥った道徳的な災いは何でしたか (民数記 25:1-9)。

「バラムの提案によって、モアブの王は、神々をたたえる大祭を催すことにきめた。 そして、バラムが、イスラエル人の参加を促すということがひそかに取り決められた。 イスラエル人は、彼を神の預言者と見なしていたので、この目的を果たすのはぞうさ なかった。大ぜいの民が、彼と共に祭りを見物した。彼らは禁じられた場所に足を 踏み入れ、サタンのわなに捕えられた。歌と踊りに浮かされ、異邦の女たちの美し さに魅せられて、彼らは主への忠誠心を捨ててしまった。一緒になって歓楽に身を ゆだねるにつれて、酒が感覚をくもらせ、自制心を失わせた。情欲がすべてを支配し、 みだらな思いで良心を汚した彼らは、勧められるままに、偶像にひざをかがめた。 彼らは異教の祭壇に犠牲をささげ、最も堕落した儀式に参加した。」(人類のあけぼ の下巻 66, 67)

b. わたしたちが天のカナンに近づく時、どのようにサタンは神の民を滅ぼすのに同様な方法で働きますか (コリント第一 10:11–13)。

「サタンは人間の心を扱うのに用いる材料を熟知している。彼は数千年にわたり、うむことなく研究してきたので、あらゆる人間を最も容易に攻撃することのできる点を知っている。彼は各世代にわたって、ペオルのバアルにおいてみごとに成功したのと同じ誘惑により、最も強固な人間、イスラエルのつかさたちをくつがえそうと働いてきた。どの時代にも、官能の耽溺という岩に乗り上げて難破した人々が大ぜいいた。時が終わりに近づき、神の民が天のカナンの境界に立つとき、サタンは、昔と同じように、彼らをよい地にはいらせまいとして、いっそう努力する。彼はひとりひとりにわなをしかける。気をつけなければならないのは、無知で無教育な人々ばかりではない。彼は最も高い地位、最も聖なる職務の人々をも誘惑する。もし彼らをいざなってその魂を堕落させることができれば、彼らを通して多くの人々を滅ぼすことができる。そして彼は今も、三千年前に用いたのと同じ手段を用いる。この世の交わり、美貌の魅力、快楽の追求、歓楽、安楽、飲酒などによって、彼は第七条を犯させようとする。」(同上71)

4. 悪い習慣

a. どのような罪がイスラエルの旅路においてしばしば訪れましたか、またそれはどのような方法で罰せられましたか (コリント第一 10:10; 出エジプト記 16:8; 民数記 14:27, 36; 11:1)。

「紅海からシナイへ行く旅の途中には、つぶやきと騒ぎがたびたび起こった。しかし、神は、彼らの無知と盲目をあわれまれて、彼らの罪をすぐに罰することをなさらなかった。しかしそのことがあった後で、神は、ホレブでご自分を彼らにあらわされた。彼らは大きな光を受けていた。彼らは、神の威光と力とあわれみの証人となったからであった。そのため、彼らの不信と不満は大きな罪となるのであった。そればかりでなく、彼らは、主を王として受け入れ、その権力に従うことを誓っていた。彼らのつぶやきは、今となっては反逆であった。イスラエルを無政府と滅亡とから守ろうとするなら、これは、反逆として直ちに厳罰が与えられなければならなかった。『主の火が彼らのうちに燃えあがって、宿営の端を焼いた』(民数記 11:1)。つぶやいた者のなかの最も罪深い人々は、雲の中からのいなびかりによって死んだ。」(人類のあけぼの上巻 451, 452)

b. なぜエジプトを出た多くのイスラエル人が約束の地に入ることができなかったのですか、またなぜ今日神の民はこの邪悪な世の中に長い間旅をしているのでしょうか(ヘブル 3:16-19; 4:1, 2)。

「四十年の間、不信、つぶやき、反逆が、昔のイスラエルをカナンの地から締め出した。同じ罪が今日、近代のイスラエルが天のカナンに入るのを遅らせている。いずれの場合も神の約束に責任はなかった。わたしたちをこの罪と悲しみの世にこれほど長い年月の間とどめてきたのは、主の民だと公言する人々の間の世俗、不献身、争いである。」(伝道 696)

c. つぶやきの根は何ですか、またわたしたちはどのようこれを克服することができますか (ローマ 11:20)。

「福音の芳香は、香のように、全世界に広く行きわたらなければならなかった。 キリストを受けいれる者にとって、その使信は、いのちからいのちに至らせるかおり であるが、不信を抱き続ける者には、死から死に至らせるかおりなのである。」(患 難から栄光へ下巻 4.5)

5. 勝利者

a. わたしたちが直面している課題にもかかわらず、勝利へのカギを述べなさい (ヨ ハネの黙示録 12:17; コリント第一 15:57)。

「すべての国民、部族、国語、民族に伝えられるべき福音は、永遠の命を得るための条件は服従であるという真理を明確に提示している。キリストは、このお方が自分たちの罪を取り去ることに同意する人々にこのお方の義を分け与えられる。我々はキリストのおかげでこのお方にあって完全にしてもらえる恵みをいただいている。」(SDA パイプル・コメンクリ -[E・G・ホワイト・コメント]7 巻 972)

「神の民には欠点があるにもかかわらず、キリストは、彼の保護の対象である彼らから、お離れにならない。キリストは彼らの衣を変える力を持っておられる。キリストは彼らの汚れた衣をとり除き、悔い改めて信じるものの上に、彼ご自身の義の衣を着せ、天の記録の彼らの名のところに、ゆるされたことを書いてくださる。キリストは、天の宇宙の前で、彼らをご自分のものとして告白なさる。彼らの敵サタンは、訴えるもの、欺くものであることが暴露される。神は、ご自分の選民のために正義を行なわれる。」(キリストの実物教訓 150, 151)

b. 神の民を識別する主な資質は何ですか (黙示録 14:12; 15:2)。

「衝突する問題において、全クリスチャン世界は、二つの大きな部類に分かれる。すなわち神の戒めとイエスの信仰を持ち続ける人々と、獣とその像とを拝み、その刻印を受ける者である。教会と国家は、自分たちの力を結束して、すべての人『小さき者にも、大いなる者にも、富める者にも、貧しき者にも、自由人にも、奴隷にも』獣の刻印を受けさせようとするが、神の民は、それを受けないのである(黙示録 13:16)。」(教会のための勧告 39, 40)

金曜日 5月6日

個人的な復習問題

- 1. イスラエル人が荒野で抱えていた大きな問題の一つを説明しなさい。
- 2. 今日偶像礼拝が実践されるいくつかの方法をあげなさい。
- 3. どのようにサタンはバアル・ペオルでしたようにわたしたちを罠にかけようとして いますか。
- 4. どのようにわたしはつぶやく傾向に打ち勝つことができるでしょうか。
- 5. どのようにわたしは最後の格闘に勝利することができますか。

聖餐式

暗唱聖句:「だから、あなたがたは、このパンを食し、この杯を飲むごとに、それによって、主がこられる時に至るまで、主の死を告げ知らせるのである。」(コリント人への第一の手紙 11:26)

「イエスは、弟子たちといっしょに出席された最初の祝宴で、彼らの救いのためになされる働きを象徴するさかずきを彼らにお与えになった。最後のばんさんにおいて、イエスは『主がこられる時に至るまで』ご自分の死を示す聖なる儀式を制定されたことによって、もう一度そのさかずきを彼らにお与えになった(コリント第一11:26)。」(各時代の希望上巻 173)

推奨文献: コリント第一 11:17-34;

各時代の希望下巻 130-142

日曜日 5月8日

1. 主の晩餐

a. なぜキリストはわたしたちのために聖餐式を制定なさったのですか、そしてそれ に対するわたしたちの態度はどのようであるべきですか (マタイ 26:26-29; コリント第-11:26)。

「弟子たちといっしょにパンとぶどう酒にあずかることによって、キリストは、ご自分が彼らのあがない主となられることを彼らに契約された。主は彼らと新しい契約をされたが、その契約によって主を受け入れる者はみな神の子となり、キリストと共同の相続人となるのである。この契約によって、天がこの世と来世でお与えになることのできるあらゆる祝福が彼らのものであった。この契約書はキリストの血によって批准されるのであった。そしてこの聖さん式をとり行なうことは、堕落した人類という大きな全体の一部分として弟子たちひとりびとりのために個人的に払われた無限の犠牲をたえず彼らの目の前に示すことになった。」(各時代の希望下巻138)

「聖さん式はキリストの再臨をさし示している。」(同上 139)

「ふさわしくない人が出席しているからといって、聖さん式にあずからないようなことがあってはならない。弟子たちはひとり残らず公然と参加し、そうすることによって、キリストを自分自身の救い主として受け入れているというあかしをたてるように求められている。キリストがご自分の民に会い、その臨在によって彼らを力づけられるのは、主が自らお定めになったこのような式においてである。ふさわしくない心や手によってこの式がとり行なわれることさえあるかも知れないが、それでもキリストがそこにおられて、ご自分の民に奉仕されるのである。」(同上 137, 138)

2. キリスト、天のパン

a. どのようにしてキリストは命を与える備えのパンとしてご自身を確認なさいましたか (コリント第一11:23-25; ヨハネ 6:33-35, 50, 51, 63)。

「イエスの肉を食べ、その血を飲むということは、キリストを自分自身の救い主として受け入れ、キリストがわれわれの罪をゆるしてくださることと、彼のうちにあるときわれわれが完全であるということとを信じることである。キリストの愛を見つめ、これについて瞑想し、これを飲むことによって、われわれはキリストの性質にあずかる者となるのである。肉体にとって食物がなくてはならないように、魂にとって、キリストはなくてはならないものである。食物は、われわれがそれを食べて、それがわれわれの生命の一部となるのでなければ、何の役にもたたない。同様にキリストは、もしわれわれが彼を自分自身の救い主として知るのでなければ、われわれにとって何の価値もないのである。理論的な知識はわれわれに何の益も与えない。キリストのいのちがわれわれのいのちとなるためには、キリストを食べ、キリストを心に受け入れねばならない。キリストの愛、キリストの恵みを同化しなければならない。」(各時代の希望中巻 138)

「世の人々にいのちを与えるキリストのいのちは、そのみことばのうちにある。イエスが病気をいやし、悪鬼を追い出されたのはそのみことばによってであった。そのみことばによって、主は海を静め、死人をよみがえらせられた。人々は彼のみことばに力があったことをあかしした。キリストは、旧約のすべての預言者たちと教師たちとを通して語られたように、神のみことばをお語りになった。聖書全体はキリストを表わすものであって、救い主は、ご自分に従う者の信仰をみことばの上に固くすえようと望まれた。キリストの目に見える存在がとり去られたとき、みことばが彼らの力のみなもとでなければならない。」(同上139,140)

b. 利己的な目的のためにご自分の創造の力を誤用するようにサタンに要求されたときに キリストが応じられた方法から、わたしたちは何を学ぶべきですか (マタイ 4:4)。

「栄養をとるには自分が食べねばならないように、われわれは、自分自身でみことばを受け入れねばならない。われわれは、みことばを他人の頭脳を仲介として受けるだけであってはならない。神のみことばをさとることができるように、聖霊の助けを神に求めながら聖書を注意深く研究しなければならない。一節をとりあげて、神がわれわれのためにその一節のなかにおかれた思想を確かめる仕事に頭脳を集中しなければならない。われわれは、その思想がわれわれ自身のものとなるまで、それについて考えをめぐらさねばならない。その時われわれは、『主が言われたこと』を知るのである。」(同上 140)

「神のみ子が天父への信仰によって生きられたように、われわれもキリストへの信仰によって生きるのである。イエスは、神のみこころにまったく服従されたので、その生涯には天父のみがあらわされた。キリストは、すべての点にわれわれと同じように試みをお受けになったが、ご自分をとりかこむ悪にすこしもけがされずに世人の前に立たれた。このように、われわれもまたキリストが勝利されたように勝利するのである。」(同上 138, 139)

3. ぶどう酒

a. カナの婚礼と聖餐式でキリストによってどのようなぶどう酒が用意されましたか (イザヤ 65:8)。

「キリストが祝宴にお備えになったぶどう酒、またご自分の血の象徴として弟子たちにお与えになったぶどう酒は、純粋のぶどう汁であった。預言者イザヤが、新しいぶどう酒について『人がぶどうのふさの中に、ぶどうのしるのあるのを見るならば、「それを破るな、その中に祝福があるから」と言う』と言っているのは、このことである(イザヤ書 65:8.)。」(各時代の希望上巻 173)

「聖さん式はキリストの再臨をさし示している。それはこの望みを弟子たちの心に生き生きと保つためであった。キリストの死を記念するために共に集まったときにはいつでも、彼らは、主が『杯を取り、感謝して彼らに与え・・・・、「みな、この杯から飲め。これは、罪のゆるしを得させるようにと、多くの人のために流すわたしの契約の血である。あなたがたに言っておく。わたしの父の国であなたがたと共に、新しく飲むその日までは、わたしは今後決して、ぶどうの実から造ったものを飲むことをしない」と言われたあの時のことを語り合うのであった』(マタイ 26:27-29)。苦難のうちにあるとき、彼らは主の再臨という望みに慰めを見いだした。『だからあなたがたは、このパンを食し、この杯を飲むごとに、それによって、主がこられる時に至るまで、主の死を告げ知らせるのである』との思いは、彼らにとって口に言い表わせないほどとうといのであった(コリント第一 11:26)。」(同上下巻 139, 140)

b. この中にどのような貴重な約束を見出すことができますか (ヨハネ第一1:7)。

「キリストの義が、わたしたちの側のなんらかの功績のゆえにではなく、神からの無償の賜物として、わたしたちに着せられるという思想は、尊い思想である。神と人の敵は、この真理がはっきりと提示されることを望んでいない。なぜなら、もし民がそれを完全に受け入れるならば、自分の力が打ち破られることを知っているからである。…

神をそのみ言葉どおりに受け入れる単純な信仰が奨励されるべきである。神の民は神聖な力をつかむ信仰を持たなければならない。『あなたがたの救われたのは、実に、恵みにより、信仰によるのである。それは、あなたがた自身から出たものではなく、神の賜物である』(エペソ 2:8)。神が、キリストのゆえに、自分たちの罪を許してくださったことを信じる人々は、誘惑を通して、信仰の良き戦いを戦うために前進することを怠るべきではない。彼らの信仰は、そのクリスチャン生活が、彼らの言葉と同様に、『イエスの血が、すべての罪からわたしたちをきよめる』と宣言するまで、ますます強く成長すべきである。」(福音宣伝者 161)

4. 価値

a. だれが主の晩餐に加わることができますか (コリント第一 11:27, 29)。 それが価値のないものにされた時の例をあげなさい (ヨハネ 13:10, 11, 18)。

「裏切り者のユダがこの聖さんに出席していた。彼は、イエスの裂かれたからだと流された血の象徴を、イエスから受け取った。彼は、『わたしを記念するため、このように行いなさい』と言われたことばを聞いた。神の小羊イエスの目の前にすわりながら、この裏切り者は、自分自身の暗い意図について思いをめぐらし、陰うつな復讐の思いを心にいだいていた。」(各時代の希望下巻132)

b. 12人の仲間であったにもかかわらず、なぜユダは聖餐式に参加するにふさわしく なかったのでしょうか。彼の固い心をやわらげるためにどのような備えがなされ ていましたか、わたしたちにも必要でしょうか (ヨハネ 13:14, 15)。

「この迫る〔イエスの〕愛の力をユダは感じた。救い主がご自分の手で彼のよごれた足を洗い、手ぬぐいでふかれたとき、ユダの心はいまこの場で自分の罪を告白してしまおうという衝動に何度もかられた。しかし彼はへりくだろうとしなかった。彼は悔い改めに対して心をかたくなにし、一瞬間おしのけられていたもとの衝動がふたたび彼を支配した。ユダは、今度は、弟子たちの足を洗っておられるキリストの行為につまずいた。イエスがこんなに自らを低くされるのだったら、とてもイスラエルの王になられることはできないと彼は思った。現世の王国における世俗的栄誉に対するいっさいの希望が失われた。キリストに従うことからはやはり何の利益も得られないのだとユダは納得した。ユダは、主がご自分を低くされたと思ったので、それを見てから、主を否認し、自分はだまされていたのだと告白しようという考えをいっそう固めた。彼は悪魔に占領されていたので、主を裏切ることによって、自分が同意した働きをやりとげようと決心した。」(同上 120)

「主はユダの足を洗われたが、彼の心は主に屈服していなかった。その心はきよめられなかった。ユダは自分自身をキリストに屈服させていなかった。」(同上 124)

「人のうちには、自分を兄弟よりも高く評価し、自我のために働き、最高の地位を求める傾向がある。そしてこのことから、しばしば悪い憶測と冷酷な精神が生じる。聖さん式に先立つ洗足式は、こうした誤解を一掃し、人を利己心から引き離し、高慢というたけうまからおろして、兄弟に仕えるへりくだった心を与えるのである。」(同上127)

5. 自己吟味

a. 儀式の前に、わたしたちはどのような行動をとるべきでしょうか (コリントの第一 11:28)。

「天の聖なる監視者であられる聖霊は、この〔洗足〕式の間、臨在されて、これを魂をさぐる時、罪を自覚する時、罪がゆるされたというありがたい確証の時としてくださる。恵みに満ちておられるキリストはそこにおられて、利己的な水路を流れていた心の思いの流れを変えてくださる。聖霊は、主の模範に従う者たちの感受性を鋭くしてくださる。われわれのための救い主の屈辱を思い出すとき、思いは思いとつながり、記憶の鎖、すなわち神の大いなる恵みと地上の友の好意とやさしさの記憶が呼び起こされる。祝福を忘れ、恵みを悪用し、親切を軽んじたことが心に思い出される。愛というとうとい植物を追い出していた冷酷という根があらわれる。品性の欠点、義務の怠慢、神への忘恩、兄弟たちに対する冷淡さが思い出される。罪は、神がそれをごらんになる光をとおして見られる。われわれの思いは自己満足の思いではなくて、きびしく自己を責める思いと謙遜な思いである。不和を生じさせたあらゆる障害を打破する力が心に与えられる。悪意と悪口は捨て去られる。」(各時代の希望下巻127,128)

b. どのようにすれば主の晩餐に参加するにふさわしい者となれるでしょうか (箴言 28:13; ヨハネ第一 1:8, 9)。

「罪は告白され、ゆるされる。 心をやわらげるキリストの恩恵が魂にはいり、キリストの愛が人びとの心を引きよせて、祝福された一致を生じさせる。」(各時代の希望下巻 128)

「自分にはなんの価値もないと感じる人も、神に自分の願いをゆだねるのをためらってはいけない。世の罪のために、キリストを与えることによって、ご自分をお与えになった神は、すべての魂の責任をご自分で負われたのである。」(キリストの実物教訓 155)

金曜日 5月13日

個人的な復習問題

- 1. イエスはどのようにわたしに聖餐式の恩恵を受けてほしいと願っておられますか。
- 2. なぜ主は命のパンとしてご自身を呼んでおられるのでしょうか。
- 3. 聖餐式のぶどう酒にあずかる時、わたしたちが焦点をあてるべきものは何ですか。
- 4. なぜわたしたちは主の食卓に来るのにふさわしくなる必要があるのでしょうか。
- 5. どのように次の聖餐式のためにもっとよく準備をすることができますか。

霊の賜物

暗唱聖句:「兄弟たちよ。霊の賜物については、次のことを知らずにいてもらいたくない。」(コリント第一12:1)

「教会の完全さは、各教会員が全く同じようになっていることによるのではない。神は、各自が自分に与えられた能力に従って、指示された自分の仕事をするためにその持ち場に立つよう、自分の適切な位置につくようにと召しておられる。」(SDA パイプル・コメンクリー [E・G・ホワイト・コメント] 6巻1090)

推奨文献: 信仰によってわたしは生きる 292

日曜日 5月15日

- 1. 賜物の神聖な源
- a. どのように使徒は御霊と霊的賜物を結びつけていますか (コリント第一 12:4-9)。

「ペンテコステの日に救いのみ言葉を聞いた人々にお授けになったように、神は、今日の男女にも上からの力を授けて下さる。今このとき、神の御霊と恵みは、それらを必要とし、み言葉どおりにこのお方を信じるすべての者のためである。」(信仰によってわたしは生きる292)

b. 神の教会における賜物の主な目的は何ですか (コリント第一 12:3, 7; エペソ 4:11-13)。

「パウロもまた、聖霊の賜物とその力のあらわれが教会に与えられた……『……わたしたちすべての者が、神の子を信じる信仰の一致と彼を知る知識の一致とに到達し、全き人となり、ついに、キリストの満ちみちた徳の高さまで至』らせるため……と宣言している(エペソ 4:12, 13)。」(同上)

「みたまの賜物は、主の働きのためその必要に応じて、どの信者にも約束されている。この約束は使徒たちの時代と同様に今日も固く、信頼に値するものである。」 (各時代の希望下巻 370)

2. 知恵の言葉

a. わたしたちはどのように聖霊の賜物を受けることができますか (ルカ 11:13; 使徒 行伝 5:32)。

「もし彼らがキリストと結合し、聖霊の賜物を所有しているならば、このお方の弟子の中で最も貧しく最も無知な者が人々の心に触れる能力をもつことができる。神は彼らを用いて、宇宙間の最高の感化を及ぼす器となさるのである。」(信仰によってわたしは生きる 292)

b. 神のみ言葉に従って、真の知恵とは何ですか (コリント第一1:30)。

「もっとも探究的な者もキリストの学校で、現在と永遠の益のためになることが実証される事柄を、安全に学ぶことができる。落ち着かず満足していない者が、ここで休息を見出すようになる。彼らの思想と愛情をもってキリストに集中し、彼らは真の知恵を得るようになる。その知恵は彼らにとって、この地上のもっとも高価な宝よりも価値がある。」(母親への訴え32)

c. わたしたちの救いに必要不可欠な知識は何ですか、そしてわたしたちはどこでそれを得ることができますか (ヨハネ 17:3; 箴言 2:3-5)。

「神と、神がつかわされたイエス・キリストを体験によって知ることは、人間を神のみ姿に変えるのである。 これは、人を自己を治めるものにする。低い性質の衝動と欲望とは、高度の意志の力に支配されるようになる。 そして、それは、また、彼を神の子すなわち、天国の相続人とし、無限の神との交わりに入れ、宇宙の豊富な富を開いて見せるのである。

これが神のことばの探究によって得られる知識である。そして、この宝は、それを得ようとしてすべてをささげる者なら、だれにでも見いだすことができるものである。」(キリストの実物教訓 90, 91)

「〔ヨハネ 17:3 引用〕。これらの言葉は多くのことを意味している。わたしたちが神を知ることができるのは、キリストを知ることによってのみである。神からつかわされたお方は、すべての者にこれらの言葉を聞くようにと求めておられる。それらは神のみ言葉であり、すべての人がそれらに注意を払うべきである。なぜなら、彼らはそれらによって裁かれるからである。救いに至るようにキリストを知るということは、霊的な知識によって活力が与えられること、このお方のみ言葉を実践することである。これなしには、他のすべてのものは価値がない。」(サインズ・オブ・ザ・タイム ズ1898 年 1 月 27 日)

3. 信仰の賜物

a. 信仰とは何ですか、またわたしたちはどのようにそれを持つことができますか (ヘ ブル 11:1; エペソ 2:8; ローマ 10:17)。

「キリストを世の救い主として信じるためには、よく磨かれた知力がなければならない。そして、その知力は、天の宝を見わけて、その真価を認め得る心に支配されたものでなければならない。この信仰は、悔い改めと心の変化とも切り離すことができない。信仰をもつことは、発見された福音の宝に含まれているすべての義務とともに、福音を受けいれることである。」(キリストの実物教訓 88)

「義とは正しい行ないである。そしてすべての者は各自の行為によってさばかれる。 わたしたちの品性は、わたしたちの行ないに現われる。行ないは信仰が本物である かどうかを示す。

キリストはいつわりをおおせにならない。また聖書の教えは巧みにつくられた寓話ではないと確信するだけでは十分でない。わたしたちは、イエスのみ名こそ人を救う唯一の名であることを信じつつも、なお信仰によってキリストを自分の救い主として信じないでいることもできる。真理の理論を信ずるだけでは十分でない。『神の戒めを守る人は、神におり、神もまたその人にいます。そして、神がわたしたちのうちにいますことは、神がわたしたちに賜わった御霊によって知るのである。』『もし、わたしたちが彼の戒めを守るならば、それによって彼を知っていることを悟るのである』(ヨハネ第一3:24; 2:3)。これが回心のほんとうの証拠である。わたしたちが口で何を言おうとも、キリストが義の行為となってあらわされるのでなければ、それは無にひとしい。」(同上292,293)

b. 本物の信仰と憶測の間の違いは何ですか (ガラテヤ 5:6 (下句))。

「真の信仰は主に『あなたはわたしに何をおさせになりたいのですか』と尋ねる。 そして道が主によって示される時、信仰はそれがどんなに困難や犠牲が伴うとして もこのお方のみ旨を行う準備ができている。」(両親、教師、生徒への勧告 183)

「独断的な信仰はサタンから出た信仰のにせものだからである。信仰は神の約束をわがものとし、従順という実をむすぶ。独断的な信仰もまた約束をわがものにするが、サタンと同じように、これを罪とがの言い訳に使う。信仰があったら、アダムとエバは神の愛に信頼し、神の戒めに従ったのである。ところが独断的な信仰のために、彼らは神の律法を犯し、神の大きな愛によって自分の罪の結果から救われると信じた。あわれみが与えられる条件に従わないで天の神の恵みを要求するのは信仰ではない。(各時代の希望上巻 141)

4. 癒しの賜物

a. イエスの地上での使命における主な活動は何でしたか (マタイ 4:23)。 宣教にける癒しの役割は何でしたか (同 4:24)。

「彼の伝道生涯においては、説教よりも、病人をいやすために多くの時間が費された。その奇跡は、滅ぼすためでなく、救うためにきたのだとの彼のみ言葉の真実さを証明している。彼がおいでになる所では至るところで、彼のいつくしみ深いことがうわさされた。そして彼がお通りになった場所では、その憐みを受けた人々が健康に喜び、新たに得た力を自分たちで試してみていた。主がなさったみわざを彼らの口から聞くために、その周囲には群衆が集まった。キリストのみ声は多くの者が耳にした最初の声であり、そのみ名は彼らの語った最初の言葉であり、そのみ額は彼らが見た最初の顔であったが、どうして彼らはイエスを愛し、賛美しないでいられようか。町や都市を通り過ぎていかれるとき、さながら彼は、生命と喜びをまきちらす生きた流れのようであった。」(ミニストリー・オブ・ヒーリング 5)

b. キリストの福音宣教の任務には、どのような働きが含まれていましたか (マルコ 16:17, 18)。

「救い主のいやしの方法には弟子たちにとって教訓があった。ある時、主は盲人の目にどろを塗って、『シロアム・・・・の池に行って洗いなさい』とお命じになった。『そこで彼は行って洗った。そして見えるようになって、帰って行った』(ヨハネ 9:7)。病気は、大医師イエスの力だけでなおすことができるのであるが、それでもキリストは単純な自然の力をお用いになった。キリストは薬物療法に賛成なさらなかったが、単純な自然療法を是認された。

苦しみをいやしてもらった多くの人々に、キリストは、『もう罪を犯してはいけない。何かもっと悪いことが、あなたの身に起るかも知れないから』と言われた(ヨハネ5:14)。こうしてイエスは病気が神の定められた自然と霊的な法則を犯した結果であることを教えられた。人が創造主の計画に調和した生活を送りさえすれば、この世の大きな不幸は存在しないであろう。

キリストは、彼らの生活習慣についてはっきりした教えをイスラエルに与え、『主はまたすべての病をあなたから取り去ら・・・・れるであろう』と保証された(申命記7:15)。彼らが条件を果たしたときに、この約束は立証された。『その部族のうちに、ひとりの倒れる者もなかった』(詩篇 105:37)。」(各時代の希望下巻 371, 372)

5. 預言の賜物

a. 他の賜物の中で預言の賜物はどの位置にありますか (コリント第一 12:28; アモス 3:7)。

「初めから、神の教会は預言の賜物を、そのただ中に、勧告し、訓告し、指導する生きた声として持っていた。わたしたちは今や第三天使の働きの終わりの時、すなわちサタンが自分の時の短いことを知りますます力を増して働く時に至っている。同時に、聖霊の賜物を通して、わたしたちに御霊の注ぎにおける働きの多様性がもたらされるであろう。これが後の雨の時である。」(原稿リリース9巻278)

b. 今日の教会のために預言の賜物はどれほど必要不可欠ですか (歴代志下 20:20)。

「貴重な時がわたしたちの前にある。真理の知識を持っているすべての人は目覚めて、自らを、すなわち体、魂、霊を神の訓練の下へ置くべきである。敵はわたしたちの行く手にいる。わたしたちははっきり目覚めて、彼に対して警戒していなければならない。神の武具を完全に身につけていなければならない。預言の霊を通して与えられる指示に従わなければならない。この時代のための真理を愛し、従わなければならない。これがわたしたちを強い惑わしを受け入れることから救うことになる。神はご自分のみ言葉を通してわたしたちに語ってこられた。このお方は教会への証を通して、またわたしたちの現代の義務と、自分たちが占めるべき立場とを明白にする書物を通して、わたしたちに語ってこられた。規則に規則、教訓に教訓、与えられてきた警告には、注意を払うべきである。もしわたしたちがそれらを軽視するならば、どのような言い訳ができるであろうか。」(教会への証8巻298)

金曜日 5月20日

個人的な復習問題

- 1. どのようにすればわたしは御霊に関する神の約束からより良く益を受けることができますか。
- 2. どこでわたしは神からのより偉大な知恵を見つけることができますか。
- 3. どのように魂の敵は、わたしを憶測のわなにかけようとしているのですか。
- 4. 他の人の健康をより良く助けるために、わたしはどのようにもっと成長することができるでしょうか。
- 5. どのようにわたしは神の民のために与えられた預言の賜物についてもっとよく理解することができますか。

「さらにすぐれた道」

暗唱聖句:「互に愛し合うことの外は、何人にも借りがあってはならない。人を愛する者は、律法を全うするのである。……愛は隣り人に害を加えることはない。だから、愛は律法を完成するものである。」(ローマ13:8, 10)

「口先で、どんなに立派なことを言っても、もし心の中に、神と同胞に対する愛が満ちていなければ、キリストの真の弟子ではない。」(患難から栄光へ上巻 343)

推奨文献: 患難から栄光へ上巻 343, 344

日曜日 5月22日

- 1. もっとも偉大な戒め
- a. どのようにキリストは律法学者から質問されましたか、その理由は何ですか (マタイ 22:36)。

「パリサイ人は、創造主に対する人の義務が示されている最初の四つの戒めを、人間同胞に対する人の義務を規定している他の六つの戒めよりもはるかに重要なものとしてとうとんでいた。その結果、彼らは実際的な信心に非常に欠けていた。イエスは人々に彼らの大きな欠点を示し、木はその実によって知られるのだと言明して、よいわざが必要であることを教えられた。そのためイエスは、はじめの四つの戒めよりもあとの六つの戒めをとうとんでおられるという非難を受けておられた。」(各時代の希望下巻 56)

b. キリストはどのように律法の原則を要約なさいましたか (マタイ 22:37-40)。

「十戒のはじめの四つは、『心をつくして主なるあなたの神を愛せよ』という一つの大きな戒めに要約される。あとの六つは、『自分を愛するようにあなたの隣り人を愛せよ』というもう一つの戒めに含まれる。これらの戒めは二つとも、愛の原則の表現である。第二の戒めを破りながら第一の戒めを守ることはできないし、また第一の戒めを破りながら第二の戒めを守ることもできない。神が心の王座に正当な座を占められるときに、正当な場所がわれわれの隣人に与えられる。われわれは自分自身と同じように神を愛するようになる。こうして神を最高に愛するときにのみ、隣人を公平に愛することができるのである。」(同上57)

2. 律法の基本原則

a. パウロはわたしたちが律法を成就する方法をどのように説明していますか。(ローマ13:8-10)。

「義は聖であり、神に似ることである。そして『神は愛である』(ヨハネ第一4:16)。義は神の律法にしたがうことである。なぜながあなたのすべての戒めは正し』く(詩篇119:172)、『愛は律法を完成するものである』からである(ローマ13:10)。義は愛であり、そして愛は神の光であり、命である。神の義はキリストの中に具体化した。わたしたちはキリストを受けることによって義を受けるのである。」(祝福の山22)

b. どのようにすればわたしたちは本物の愛を得ることができますか (ヨハネ第一 4:19)。

「キリストのやさしい、心をとらえる愛を経験したことのない人たちは、ほかの人々をいのちの泉に導くことはできない。心のうちにあるキリストの愛は、強く迫る力であり、それは会話をとおし、やさしい同情に満ちた精神をとおし、彼らが交わっている人々の生活の向上をとおしてキリストをあらわすよう彼らを導く。クリスチャンの働き人が仕事の成果をあげるには、キリストを知らなければならない。そして、キリストを知るには、キリストの愛を知らなければならない。天では、働き人としてふさわしいかどうかは、キリストが愛されたように愛し、キリストが働かれたように働く彼らの能力によって量られる。」(患難から栄光へ下巻 254)

c. 新しい契約における神のみ約束は何ですか (ヘブル 8:10-12)。 いつ神の律法は わたしたちの心に書かれますか (ローマ 5:1, 5)。

「キリストの受け入れは、人間に価値を与える。このお方の犠牲は、キリストを自分の個人的な救い主として受け入れるすべての人に、命と光をもたらす。イエス・キリストを通して与えられる神の愛は、このお方の体のすべての肢体の心の中に広く降り注がれ、それと共に、父なる神の律法の活力をもたらす。こうして、神は人と共に住み、人は神と共に住むことができる。」(セレクテッド・メッセージ 1巻 299, 300)

「新しい、より良い契約においては、もし律法の違反者が信仰によって主を個人的救い主として受け入れるならば、キリストは彼らのために律法を満たされる。…

あわれみと許しは、彼らの罪を取り除かれる主の功績により頼んでキリストに来るすべての者に報いとして与えられる。より良い契約において、わたしたちはキリストの血によって罪から清められる。」(彼を知るために 299)

3. 愛の本質的な性質

a. パウロはわたしたちの心の中における神の愛の最高の重要性をどのように説明していますか (コリント第一13:1-3)。

「口先で、どんなに立派なことを言っても、もし心の中に、神と同胞に対する愛が満ちていなければ、キリストの真の弟子ではない。大いなる信仰を持ち、奇跡を行うほどの力があっても、もし愛がなければ、その信仰は価値がない。また、大いなる施しが行われるかもしれない。しかし、それが真の愛以外の動機によって行われたとするならば、自分の全財産を人に施しても、その行為によって神の恵みにあずかることはできない。また、熱心さのあまり、殉教の死をとげることさえするかもしれない。しかし、もしそれが愛の動機によるものでなければ、神は彼を、惑わされた熱狂家、あるいは野心的偽善者とみなされることであろう。」(患難から栄光へ上巻 343)

b. パウロは愛にどのような特徴を適用しましたか (コリント第一13:4-7)。

「最も純粋なよろこびは、最も深い謙遜から生じる。最も強く、最も高潔な品性は、 忍耐と愛と、神のみこころに対する服従という基礎の上に築かれるのである。…

キリストのような愛は、他人の行為と動機を最も好意的に解釈する。それは、不必要に彼らの欠点を暴露したりしない。それは、好ましくない噂に聞き耳を立てたりせず、むしろ、他の人々の良い特質を思い起こさせようと努めるのである。

この愛は、『いつまでも絶えることがない。』これは、決してその価値を失うことがない。それは、天の特性である。その所有者は、尊い宝としてそれを持って、神の都の門の中にはいることができるのである。」(同上 343, 344)

c. 神の愛はどれほど効果的で耐久性がありますか (コリント第一 13:8)。

「神に対する最高の愛、互いの無我の愛、これこそ、天父がさずけて下さる最上の贈物である。この愛は衝動ではなく、きよい原則、永遠の力である。献身していない心は愛を起こすことも、生じることもできない。イエスに支配されている心にだけ愛は見いだされる。」(同上下巻 254)

4. 伝道者の必要不可欠な条件

a. キリストはペテロを伝道の働きにお戻しになる前にどのような質問をなさいましたか (ヨハネ 21:15-17)。

「キリストはペテロに、奉仕の条件をたった一つだけ言われた、『わたしを愛するか』。これが最も大切な資格である。ペテロに他のものが全部備わっていたとしても、もしキリストを愛する愛がなければ、神の羊たちを牧する忠実な羊飼いになることはできなかった。知識、博愛、雄弁、熱情、これらすべてはよい働きに欠くことのできないものであるが、心にキリストへの愛がなければ、キリスト教の牧師の仕事は失敗である。

キリストへの愛は気まぐれな感情ではなく、生きた原則であり、心の中にある変わることのない力としてあらわれるものである。羊飼いの品性と品行が、彼の主張する真理をよく示しているならば、主はその働きを承認する印を押して下さる。羊飼いと羊の群れは、キリストにある共通の望みによって結ばれ、一つになる。」(患難から栄光へ下巻 213, 214)

b. なぜキリストはペテロに同じ質問を三回も繰り返されたのですか (ヨハネ 13:36-38; 18:17, 25-27)。

「三度ペテロは公然と主を知らないと言った。そこでイエスは三度ペテロから愛と 忠誠心の保証を引き出し、その鋭い質問を、ちょうどさかとげのある矢のように、 彼の傷ついた心につきつけられた。弟子たちの集まっている前で、イエスは、ペテ ロの悔い改めの深さを明らかにし、かつては威張っていた弟子がどんなに徹底的に へりくだった者になったかをお示しになった。

ペテロは、生まれつき出しゃばりで衝動的だったので、サタンは彼を倒すためにそうした特性につけこんだ。ペテロがつまずく直前に、イエスは、『サタンはあなたがたを麦のようにふるいにかけることを願って許された。しかし、わたしはあなたの信仰がなくならないように、あなたのために祈った。それで、あなたが立ち直ったときには、兄弟たちを力づけてやりなさい』と彼に言われたのであった(ルカ22:31,32)。その時がいまきていた。そしてペテロの生まれ変わりは明らかだった。主が、綿密な、試みの質問をされても、出すぎた、自己満足の答えは一つも出てこなかった。そしてそのけんそんと悔い改めのゆえに、ペテロは、群れの牧者として行動する前に、これまでになかったほどよい準備ができた。

ペテロはつまずく前には、いつも瞬間的な衝動から不用意にしゃべっていた。彼は自分自身について、あるいは自分が言わねばならないことについてはっきりした自覚をもたないうちに、いつもすぐ人を矯正したり、自分の思っていることを口に出したりした。しかし悔い改めたペテロはまったくかわった。彼の以前の激しさは残っていたが、キリストの恵みがその熱心さを調節した。」(各時代の希望下巻354,355)

5. 新しい戒め

a. 無私の愛は神のように永遠ですが、なぜそれは「新しい」と呼ばれたのでしょうか (ヨハネ 13:34)。

「弟子たちとのこの最後の集りにおいて、キリストが彼らのために表明された大きな願いは、キリストが彼らを愛されたように彼らが互いに相愛することであった。いく度もキリストはこのことを語られた。……弟子たちにとって、このいましめは新しいものであった。彼らは、キリストが彼らを愛されたように互に愛していなかったからである。新しい考えと動機が彼らを支配しなければならないということ、新しい原則を彼らが実行しなければならないということ、主の生涯と死を通して彼らが愛について新しい観念を受け入れるということを、キリストはお知りになった。互いに愛し合いなさいという命令は、主の自己犠牲の光に照らしてみるとき、新しい意味を持っていた。恵みの全体の働きは、愛と克己と自己犠牲的努力のたえまない一つの奉仕である。キリストが地上に滞在しておられた一刻一刻に神の愛はおさえることのできない流れとなってキリストから流れていた。キリストのみたまを吹きこまれる者はみなキリストが愛されたように愛するのである。キリストを動かした原則がお互いの間における彼らの態度の動機となるのである。」(各時代の希望下巻 166, 167)

b. この愛が教会の中で表される結果はどのようになるでしょうか (マタイ 24:14)。

「キリストは教会に神聖な責任をお与えになった。教会員はそれぞれ、神がその恵みの富と、計り知れないキリストの富とを世にお伝えになる器とならねばならない。世の人々に、キリストのみたまと品性をあらわす器ほど、キリストが望んでおられるものはない。人間を通して救い主の愛があらわされることほど、世が必要としているものはない。全天は、神がキリスト教の力をあらわすことがおできになる男女を待っている。」(患難から栄光へ下巻 308)

金曜日 5月27日

個人的な復習問題

- 1. 十戒における第二の石板は、わたしたちに何を教えていますか。
- 2. なぜわたしは新しい契約の良い知らせを喜ぶことができるのでしょうか。
- わたしは愛のどの特徴をもっと完全に植え付ける必要があるのでしょうか。
- 4. イエスはペテロに彼の伝道の働きにおいてどのような必要不可欠な資質を持って ほしいと願っておられたのですか。
- 5. わたしがキリストの御霊を植え付けられているとき、わたしに何が起こりますか。

第一安息日献金 ルワンダにおける伝道学校のために

SDA 改革運動の働きは、2003 年にソーシャルメディアを通じて、届きました。 それは、1994 年にわずか 90 日の間に

百万人もの人を死に至らせた恐ろしい集団 虐殺から、さほど経っていませんでした。 神の恵みと熱心な働きにより、ルワンダの 兄弟たちは前進していきました。

神の御力のうちに、伝道団はルワンダからメッセージを周辺の国々、すなわちブルンジ、コンゴ共和国、北キブ、南キブ、そしてウガンダへメッセージを伝えました。キニヤルワンダ語は、これらの国々を通じておよそ3000万人の人々によって使われており、これまでにわたしたちの兄弟が



3000人の魂に伝える働きを容易にしてきました。

わたしたちのメンバーの中では、外国語を話せる人が 10%しかいません。そして わたしたちの救い主イエスによって与えられた指示は、この惑星にいるすべての国 語に伝えなければならないということです。啓示者ヨハネは次のように述べていま す。「わたしは、もうひとりの御使が中空を飛ぶのを見た。彼は地に住む者、すな わち、あらゆる国民、部族、国語、民族に宣べ伝えるために、永遠の福音をたず さえてきて」(黙示録 14:6)。

このために、ルワンダのユニオンはこれらのすべての国々を助けるために、青年たちを派遣すべく伝道学校を建設することを決定しました。霊的な教育だけでなく、英語コースを設け、彼らが自ら証の書を開き、伝道の働きにおいて技能を延ばすことができるように助けます。中央アフリカにおいて、魂が毎日救い主へと勝ち取られています。伝道の働きが増えると、救い主から与えられた任務を完成させるための訓練された働き人の必要も増します。「正しく訓練されたわれらの青少年たちから成るこのような働き人の軍勢があたえられるとき、十字架につけられ、よみがえり、まもなくおいでになる救い主のメッセージは、いかにすみやかに全世界に述べ伝えられることであろう。」(教育320)

親愛なる兄弟姉妹の皆さん、わたしたちのために死なれたキリストによって与えられた使命を果たすことができるように、この事業における皆さんの資金的な援助をお願いいたします。わたしたちの世界は日々変化しています。そして、これらの気候災害や全地の戦争により、わたしたちはどれくらいの間、働くことができるかわかりません。人々は毎日死んでいっています。そして神はわたしたち一人びとりに、魂を救うために何をしたかを問われます。それに各自が答える必要があります。

皆さん一人びとりにお願いするのは、このためです。どうぞ中央アフリカ諸国の 伝道学校プロジェクトを覚えてください。ありがとうございます!

ルワンダのユニオンミッションから皆さんの兄弟より

福音と復活

暗唱聖句:「兄弟たちよ。わたしが以前あなたがたに伝えた福音、あなたがたが受けいれ、それによって立ってきたあの福音を、思い起してもらいたい。もしあなたがたが、いたずらに信じないで、わたしの宣べ伝えたとおりの言葉を固く守っておれば、この福音によって救われるのである。」(コリント第一15:1, 2)

「十字架にかかられ、キリストは福音であられた。いま、わたしたちには、『見よ、世の罪を取り除く神の小羊』というメッセージがある。わたしたちの教会員は自分の目を十字架にかかられ、よみがえられた救い主にとめ続けないであろうか。このお方に彼らの永遠の命の希望が集中しているのである。これこそ、わたしたちのメッセージ、わたしたちの論拠、わたしたちの教理、悔い改めない者に対するわたしたちの警告、悲しんでいる者へのわたしたちの励まし、すべての信徒のための希望である。」(原稿リリース21巻37)

推奨文献: 両親、教師、生徒への勧告 22-24

日曜日 5月29日

1. 受肉

a. 天使たちはどのようにしてキリストの誕生についてメッセージを伝えましたか、そして神は彼らに何をお命じになりましたか(ルカ2:10,11: ヘブル1:6-8)。

「このことばに、栄光の光景が、聞いている羊飼たちの心を満たす。イスラエルに救い主がおいでになったのだ。権力と栄誉と勝利が主の来臨に連想されている。しかし天使は、彼らが貧しさとはずかしめのうちにあられる救い主をみとめるように彼らを準備させねばならない。」(各時代の希望上巻33)

b. キリストの誕生はどのように預言されていましたか (イザヤ 7:14; マタイ 1:22, 23)。

「キリストがこの世にこられたのは、この栄光をあらわすためであった。神の愛の光をあらわすために、すなわち『われらと共にいます』神となるために、キリストは、罪のために暗くなったこの地上においでになった。だから、『その名はインマヌエルと呼ばれるであろう』とイエスについて預言された。」(各時代の希望上巻1)

2. 完全な生涯

a. 地上のキリストの生涯についてわたしたちは何と語られていますか (イザヤ 53:2-4; ルカ 4:18, 19; 使徒行伝 10:38)。

「〔キリストの〕全生涯は、十字架におけるこのお方の死の序章であった。このお方のご品性は、すべての神の戒めに対する従順の生涯であり、地上にいるすべての人のための模範となるべきであった。このお方のご生涯は、人性において律法を生きることであった。その律法をアダムが犯したのであった。しかし、キリストは、律法に対するご自分の完全な従順によって、アダムの恥辱的な失敗と堕落を贖われた。」(クリスチャン教育の基礎 382)

「父の栄光の輝きであられるキリストは、世の光として、この世界に来られた。彼は、人びとに神をあらわすために来られた。」(キリストの実物教訓 392)

「キリストの働きはわたしたちの模範となられることであった。絶えず、このお方は良いことをなしながら巡回された。宮や会堂において、町の通りにおいて、市場や作業場において、海辺や丘の間で、このお方は福音を説き、病人をいやされた。このお方の生涯は、無我の奉仕の生涯であった。そして、これがわたしたちの教科書となるべきである。このお方のやさしい憐れみ深い愛は、わたしたちの利己心と心なさを讃責する。

キリストが行かれるところはどこでも、その道に祝福をまき散らされた。このお方を信じると主張するどれだけの者が、親切と優しい同情、無我の愛というこのお方の教訓を学んできたであろうか。…このお方の忍耐は弱ることなく、このお方の愛が抑制されることはなかった。

キリストはわたしたちが忍耐強く辛抱強く、自分の罪のために滅びつつある全地に散った人のいない海辺の破壊された難破船のような何千もの人々のために労するよう求めておられる。」(教会への証 9 巻 31)

b. キリストの地上での使命の終わりに近づいたとき、このお方はご自身について、何と宣言なさいましたか。また、これは、どのようにわたしたちにとって益となりますか (ヨハネ 8:46)。

「神聖な神の御子は、唯一神の完全な律法の要求を満たすのに十分な価値のあるお方であった。

このお方こそ唯一、人として地上を歩まれ、すべての人に向かって、だれがわたしに罪があると責めうるのかと言うことがおできになるお方であった。このお方は人間の創造において御父と一つであられた。そして、ご自身の神聖な品性の完全さを通して、人間の罪を贖い、高め、最初の状態に戻す力を持っておられた。」(預言の霊 2 巻 10)

3. このお方は人類のために死なれた

a. 福音のクライマックスとその影響について述べなさい (コリント第一 15:3)

「十字架にかかられ、キリストは福音であられた。…もしわたしたちが人の思いの中に関心を呼び起こし、彼らに自分の目をキリストに留めさせることができれば、わきへどき、彼らに自分の目を神の小羊にとめ続けるようにと頼むのである。彼らはこうして自分たちの教訓を受ける。だれでも、わたしのあとに従ってきたいと思う者は、自分を否定し、自分の十字架を負い、そしてわたしに従ってきなさい。目をイエスにとめている人は、すべてをあとにする。彼は利己心に死ぬ。すべての神のみ言葉を信じる。そのみ言葉はキリストにあって非常に栄光にかがやき、くすしく高められている。」(原稿リリース 21 巻 37)

「神のみ子はわたしたちのために拒まれ、さげすまれた。あなたは十字架が全部見えるところで、信仰の目でキリストの苦しみを見つめながらあなたの試練、あなたの敵の話を語ることができるだろうか。キリストの青ざめた、わななかれるくちびるから、ご自分をののしる者、殺害者のために『父よ、彼らをおゆるしください。彼らは何をしているのか、わからずにいるのです』(ルカ23:34)と、主が祈られているその時に、あなたはあなたの敵への復讐を心の中にいだいていることができるだろうか。」(彼を知るために65)

b. どんな人でも永遠に救われることができる唯一の方法は何ですか (イザヤ 45:22; ヨハネ 3:14-16, 36; コリント第二 5:21)。

「罪のない〔キリストは〕罪人の刑罰を負われた。無実でありながら、違反者のために身代わりとして自らをお捧げになった。すべての罪の罪深さが世の贖い主の神聖な魂の上に重くのしかかった。すべてのアダムの息子むすめの邪悪な考え、邪悪な言葉、邪悪な行いは、このお方ご自身の上に懲罰を要求した。なぜなら、このお方が人間の身代わりとなられたからである。罪の責任はこのお方のものではなかったが、このお方の霊は、人間の不法によって裂かれ、傷つけられた。そして罪を知らないお方が、わたしたちのために罪となられた。それはわたしたちがこのお方のうちにあって、神の義となることがおできになるためであった。」(セレクテット・メッセージ 1巻 322)

「キリストの死は、人類に対する神の深い愛を証明している。それはわれわれの 救いの保証である。クリスチャンから十字架を取り除くことは、空から太陽をおお い隠すようなものであろう。十字架はわれわれを神に和解させ、われわれを神に近 づかせる。父親の愛の優しいあわれみをもって、神は、人類を永遠の死から救う ためにみ子が耐えられた苦悩をご覧になり、愛するみ子によってわれわれを受け入 れてくださるのである。」(患難から栄光へ上巻 225, 226)

4. このお方はよみがえられた

a. マグダラのマリヤと他の女たちは天使たちからどんなすばらしい知らせを受けましたか (ルカ 24:5-8)。

「〔女たち〕は向きを変えて逃げようとしたが、天使のことばが彼女たちの足をとどめた。「恐れることはない。あなたがたが十字架におかかりになったイエスを捜していることは、わたしにわかっているが、もうここにはおられない。かねて言われたとおりに、よみがえられたのである。さあ、イエスが納められていた場所をごらんなさい。そして、急いで行って、弟子たちにこう伝えなさい、『イエスは死人の中からよみがえられた』(マタイ 28:5-7)。…

主はよみがえられた、主はよみがえられたのだ。女たちはそのことばを何度も何度もくりかえす。香料を塗る必要はもうないのだ。救い主は死んでおられるのではなく、生きておられるのだ。イエスがご自分の死について語られたとき、ふたたびよみがえると言われたことを、女たちは思い出す。きょうは世界にとって何という日だろう。『そこで女たちは恐れながらも大喜びで、急いで墓を立ち去り、弟子たちに知らせるために走って行った』。(各時代の希望下巻 321, 322)

b. キリストの復活は救いの計画にとってどれほど重要不可欠ですか (コリント第一 15:4, 12-20)。

「使徒パウロは、人を説得せずにはおかぬ力をもって、復活の偉大な真理を説いた。[コリント第一 15:13-20 引用]。

使徒パウロは、コリントの兄弟たちの心を、復活の朝の勝利へと向かわせた。その時、すべての眠っていた聖徒はよみがえらされて、永遠に主と共に住むのである。」 (患難から栄光へ上巻 345)

「わたしたちは聖書の中に、キリストが死人の中からよみがえられたことについて 読む。しかし、わたしたちはそれを信じているかのように行動しているだろうか。わたしたちはイエスが生きておられる救い主であり、ヨセフの新しい墓の前にあった 大きな石は転がされ、その墓の中にはおられないこと、かえってこのお方は死人の中からよみがえられ、高いところへ上られ、とりこを捕えて引き行き、そして人々に良い賜物を分け与えたことを信じているだろうか。このお方は天の法廷でわたしたちの裁判のために嘆願するためにそこにおられる。このお方はわたしたちが天の法廷で友、すなわちわたしたちの弁護者および仲保者となるべき人を必要としているゆえに、そこにおられるのである。そうであれば、わたしたちはこのことを喜ぼうではないか。わたしたちには神を賛美するためにすべてのものがある。多くの人々は自分の宗教的な状態を自分の感情で判断する。しかし、それは安全な標準ではない。わたしたちのクリスチャン生活は、わたしたちの気持ちに依存してはいない。そうではなく上からのものを正しくつかむことにかかっているのである。」(レビュー・アンド・ペラルド 1892 年 3 月 8 日)

木曜日 6月2日

5. このお方が見られた

a. どのぐらいの人々がキリストの復活の証人になりましたか (マタイ 27:52-54; コリント第一 15:5-8)。

「キリストは、よみがえられたとき、多くのとりこをよみからおつれになった。キリストがなくなられるときの地震で墓が口を開き、キリストがよみがえられると、彼らはキリストといっしょに出てきた。彼らは神と共に働いた者、生命を犠牲にして真理のためにあかしをたてた者たちであった。いま彼らは、彼らを死人の中からよみがえらせてくださったキリストの証人となるのであった。……

これらの人たちは都へ行って、多くの人に現われ、キリストが死人の中からよみがえられ、われわれはキリストと共によみがえったのだと宣言した。こうしてよみがえりについての聖なる事実が不滅のものとなった。」(各時代の希望下巻 317)

b. すべての忠実な信者に何が約束されていますか (コリント第一 15:51–55; テサロ ニケ第一 4:13–18)。

『わたしはよみがえりであり、命である』と宣言された(ヨハネ11:25)。キリストのうちには、借りたものでもなければ、ほかから由来したものでもない、本来の生命がある。『御子を持つ者はいのちを持』つ(ヨハネ第一5:12)。キリストの神性は、永遠の生命についての信者の確信である。『わたしを信じる者は、たとい死んでも生きる。また、生きていて、わたしを信じる者は、いつまでも死なない。あなたはこれを信じるか』とイエスは言われた(ヨハネ11:25,26)。キリストはここでご自分の再臨の時を予期しておられる。その時、死せる義人は朽ちない者としてよみがえり、生ける義人は死を見ないで天へ移されるのである。」(同上中巻345,346)

金曜日 6月3日

個人的な復習問題

- 1. キリストの受肉は謙遜についてわたしたちに何を教えていますか。
- 2. わたしの生涯はどのようにして主のご生涯をより近く反映することができますか。
- 3. 十字架上の場面はわたしの態度にどのような影響を与えますか。
- 4. どのようにキリストの復活はわたしの態度に影響を与えますか。
- 5. キリストの神性の重要性について、わたしたちは何を悟る必要がありますか。

「恵みが、あなたがたにあるように」

暗唱聖句:「わたしたちの父なる神と主イエス・キリストから、恵みと平安とが、あなたがたにあるように。」(コリント第二1:2)

「わたしたちはすべてを神の無償の恵みに負っている。契約における恵みは、わたしたちの養子縁組を定めた。救い主における恵みがわたしたちの贖い、わたしたちの再生、そしてキリストとの相続へとわたしたちを高めることを達成した。わたしたちがこのお方をまず愛したからではなく、神がわたしたちを愛してくださった。かえって、わたしたちが『まだ罪人であったときに』わたしたちのためにキリストは死んでくださり、わたしたちの贖いのために完全で豊かな備えをなしてくださったのである。」(レピュー・アンド・ヘラルド 1908 年 10 月 15 日)

推奨文献: キリストの実物教訓 369-383

日曜日 6月5日

1. 恵み

a. 恵みの意味は何ですか、そしてそれは誰に提供されていますか (テトス 2:11)。

「恵みとは受ける価値がない人間に向かって働く神の特性の一つである。わたしたちがそれを求めたのではなく、わたしたちをさがすためにそれが送られたのである。

神の恵みは救いの力の大いなる要素であり、この恵みなしには人間の努力はむなしい。」(信仰によってわたしは生きる94)。

「恵みとは不相応 (ふそうおう) の恩寵である。御使たちは罪を知らないため、自分たちに向かって恵みが働かされることがどういうことかを理解しない。しかし、わたしたちの罪深さは、憐れみ深い神からの恵みの働きを要求する。わたしたちを迷い出たものとして探し、囲いに連れ戻すためにわたしたちの救い主を送ったのは、恵みであった。」(セレクテッド・メッセージ1巻331,332)

b. わたしたちが救われることができる唯一の道は何ですか (エペソ 2:8, 9)。

「〔キリストの〕義以外に何ものも、恵みの契約の祝福の一つも得る資格を与えることはできない。…わたしたちは自分自身の恵みや功績が自分を救うと考えてはならない。キリストの恵みがわたしたちの救いの唯一の希望である。」(同上 351)

2. 義とされる恵み

a. 神の御前でわたしたちが義と認められる根拠は何ですか (ローマ 3:24-26)。

「あなたはキリストのうちにいるであろうか。もし自分自身が過ちを犯す無力で死刑宣告を受けた罪人であることを認めないならば、そうではない。自己を高め、栄光を帰しているなら、そうではない。もしあなたのうちに何らかの善があるならば、それはまったく同情深い救い主の憐れみに起因している。あなたの生まれ、あなたの評判、あなたの富、あなたのタラント、あなたの徳、あなたの敬神、あなたの哲学やその他あなたのうちにある、もしくはあなたにつながるなんらかのものが、あなたの魂とキリストの間の一致のきずなを形成することはない。あなたが教会につながっていること、兄弟があなたをどのように見ているかは、あなたがキリストを信じない限り、何の役にも立たない。このお方について信じるだけでは十分ではない。このお方を信じなければならない。あなたはこのお方の救いの恵みに完全により頼まなければならない。」(教会への証 5 巻 48,49)

b. すぐに義とされた結果は何ですか (ローマ 5:1-3)。

「神の御前に深く悔いた罪人が自分のためのキリストの贖いを認めてそれを今の生活およびこれからの生活における唯一の希望として受け入れられる時、彼の罪は許される。これが信仰による義認である。信じる魂は皆、自分の意志を完全に神の御心に順応させ、贖い主の贖いの功績を信じる信仰を働かせ、また力から力へ、栄光から栄光へと前進しつつ、悔い改めの状態を保つ必要がある。

許しと義認は一つであって同じ事である。信仰によって信者は反逆者、罪とサタンの子供という立場から、イエス・キリストの忠実な臣下の立場へと移る。養子縁組により、その人を彼の子供として受け入れてくださったからである。罪人は、罪の許しを受ける。彼らの罪を身代わり、また保証人であるお方が負ってくださったからである。主は、天におられるご自分の父にこう言われる。『これはわたしの子です。わたしは、彼の身代わりとなって彼の罪のために苦しみを受けたので、わたしの生命保険証書一永遠の命一を与えて、この者を死の有罪宣告から執行猶予にしました。これはわたしの愛する子です』と。こうして許され、キリストの美しい義の衣を着せられた人は、神の御前に欠点のない者として立つのである。…

義認は有罪宣告の反対である。神の無限のあわれみはそれに全く値しない人々に向かって働く。神は、我々の罪のなだめの供え物となられたイエスのために、違法と罪とをお許しになる。キリストを信じる信仰によって、罪を負った違法者は神の好意を得、永遠の命という強い希望に入れられるのである。」(SDA パイプル・コメンクリー [E・G・ホワイト・コメント] 6 巻 1070, 1071)

3. 聖化する恵み

a. どのように信者は罪に打ち勝つことができますか (ローマ 6:1, 2, 14)。

「キリストの贖いは、我々の罪が許されるための単なる技術的な方法ではない。 それは不義の癒しと霊的健康の回復のための神の治療法である。それは、キリストの義が我々の上に着せられるだけでなく、我々の心と品性の内に宿る、天が定めた方法である。…

我々の身代金は救い主によって支払われた。唯一人としてサタンの奴隷にされる必要はない。キリストは、天が与えた我々の模範、我々のための力、全能なる助け手として我々の前に立たれる。我々は計算することができないほどの値で買い取られたのである。だれが、いつくしみと恵みにあふれる贖いの愛を測ることができるであろうか。…

バプテスマによって神の印を受けた人々は主が彼らをご自分の息子、娘と宣言して彼の上にご自分の署名をされたことを覚え、これらの言葉を尊ぼう。

無限であり、全知の父、御子、聖霊は、心から神との契約関係に入る人々を受け入れられる。三位の神は、世を捨ててキリストを魂の宮に受け入れた志願者を受け入れるために、すべてのバプテスマに臨在なさる。これらの志願者は神の家族の一員となり、彼らの名前は小羊の命の書に書き込まれる。」(SDA パイプル・コメンタリー[E・G・ホワイト・コメント]6巻 1074, 1075)

b. わたしたちの霊的な生活の中での勝利をどのように確信できますか (コリント第二12:9)。

「罪人は、キリストの恵みがなければ希望のない状態であり、彼のためにできることは何もない。しかし神の恵みによって超自然の力が与えられる。……罪がその憎むべき性質のうちに識別され、ついには魂の宮から追い払われるのは、キリストの恵みが与えられることによる。わたしたちがキリストとの親しい交わりに入り、救いのみ働きにおいてこのお方と共に働くのは恵みによってである。」(神の驚くべき恵265)

「わたしたちは、日々に時々に、イエスを信頼する必要がある。このお方はわたしたちの日が続く間、わたしたちの力は続くと約束された。このお方の恵みによって、わたしたちはあらゆる現在の重荷に耐えることができ、その義務を果たすことができる。」(教会への証5巻200)

4. 自己を明け渡す

a. わたしたちがキリストに完全に自らを明け渡すとき何が起こりますか (マタイ 11:28-30)。

「あなたは試みられるだろうか。主は救いだしてくださる。あなたは弱いだろうか。主は強くしてくださる。あなたは無知だろうか。主は知識を与えてくださる。あなたは傷ついているだろうか。主はいやしてくださる。『主はもろもろの星の数を定め、すべてそれに名を与えられる。』しかも『主は心の打ち砕かれた者をいやし、その傷を包まれる』(詩篇 147:4,3)。『わたしのもとにきなさい』というイエスの招きである。あなたの心配事や試練が何であろうと、主の前に事情をうち明けなさい。あなたの心には忍耐のささえができる。あなたが困惑や困難からぬけ出す道が開かれる。あなたは自分が弱く無力であることを知れば知るほど、イエスの力によってますます強くなる。あなたの重荷が重ければ重いほど、その重荷を負ってくださるかたにまかせたときの休みは有難いのである。キリストが提供される休みは条件つきであるが、その条件は明示されている。それはだれでも応ずることのできる条件である。イエスはその休みがどのようにしてみいだされるかを告げておられる。」(各時代の希望中巻 49)

b. イエスとつながる時、わたしたちはどれほど強くなりますか(ヨハネ 15:5)。

「魂がキリストに屈服するとき、新しい力が新しい心を占領する。人が自分自身ではなしとげることのできない変化が行われる。それは超自然の働きであって、人の性質に超自然の要素をもたらす。キリストに屈服した魂は、キリストご自身のとりでとなり、キリストはそれをそむいた世の中に保たれる。キリストはその中でご自身の権威よりほかの権威がみとめられないように望まれる。このように天の勢力によって占領された魂はサタンの攻撃に攻め落されることがない。しかしわれわれは、キリストの支配に服していないときに、悪魔に支配される。われわれはこの世の主権を争っている二大勢力のどちらかに必然的に支配されるのである。暗黒の王国の支配にはいるためには、わざわざその国の奉仕をえらぶ必要はない。光の王国と同盟することをおこたりさえすればよいのである。もしわれわれが天の勢力と協力しなければ、サタンは心を占領してそこを永住の地とする。悪に対する唯一の防備は、キリストの義を信じる信仰によって、心のうちにキリストに内住していただくことである。」(同上 41, 42)

木曜日 6月9日

5. 生きたつながり

a. 罪深い人間がどのように神の御前に義となることができますか (ヨハネ 15:5-8)。

「キリストがお教えになった義とは、心と生活とを神のみこころのあらわれに一致させることである。罪深い人間は、神への信仰を持ち、神と生きた関係を持続することによってのみ義となることができる。そのとき真の信心によって思想が高められ、生活は高潔なものとなる。そのとき、宗教の外面的な形式が、クリスチャンの内面的な純潔と一致する。」(各時代の希望中巻17,18)

b. わたしたちはどのようにキリストにとどまることができますか (ヨハネ 15:9-11)。

「枝とぶどうの木とのつながりは、あなたがたとわたしとの間の関係を表わしていると、キリストは言われた。若枝が生きたぶどうの木につがれて、せんいはせんいと、木目は木目とつながって、木の幹へと生長するのである。ぶどうの木の生命は枝の生命となる。そのように、罪とがのうちに死んだも同様の魂は、キリストにつながることによって生命を受けるのである。キリストを自分自身の救い主として信じる信仰によって、この結合がなされる。罪人は自分の弱さをキリストの強さに、自分のむなしさをキリストの充実に、自分のもろさをキリストの耐久力に結合させる。そのとき彼は、キリストの心を持つのである。…聖霊の働きを通して、人は神の性質にあずかる者となる。彼は愛するみ子のうちに受け入れられる。

キリストとのこのつながりは、一度できたら、持続しなければならない。キリストは、『わたしにつながっていなさい。そうすれば、わたしはあなたがたとつながっていよう。枝がぶどうの木につながっていなければ、自分だけでは実を結ぶことができないように、あなたがたもわたしにつながっていなければ実を結ぶことができない』と言われた(ヨハネ 15:4)。これは気まぐれな接触でもなければ、ついたり離れたりする関係でもない。枝は生きたぶどうの木の一部となるのである。根から枝への生命と力と実りの伝達はさまたげられることなく、たえまなく行なわれる。ぶどうの木から離れると、枝は生きることができない。あなたがたはわたしを離れては生きることができないと、イエスは言われた。あなたがたがわたしから受けた生命は、たえまないまじわりによってのみ持続されるのだ。わたしなしでは、あなたがたは一つの罪にうち勝つことも、一つの試みに抵抗することもできない。」(各時代の希望下巻 163, 164)

金曜日 6月10日

個人的な復習問題

- 1. なぜ神の恵みを感謝することがわたしたちにとってそれほど重要なのでしょうか。
- 2. 苦難はわたしのクリスチャン経験においてどのようにわたしを強めますか。
- 3. どのように驚くべき恵みがわたしを天のカナンに導きますか。
- 4. キリストへの心からの明け渡しの力を説明しなさい。
- 5. なぜイエスはご自身をぶどうの木にたとえられたのですか。

新しい契約の務め

暗唱聖句:「わたしが、それらの日の後、イスラエルの家と立てようとする契約はこれである、と主が言われる。すなわち、わたしの律法を彼らの思いの中に入れ、彼らの心に書きつけよう。こうして、わたしは彼らの神となり、彼らはわたしの民となるであろう。」(ヘブル 8:10)

『新しい契約』は、『さらにまさった約束』によるもので、罪のゆるしの約束と、心を新たにする神の恵みと、神の律法の原則に心を一致させる約束によるのである。」(人類のあけぼの上巻 442)

推奨文献: 人類のあけぼの上巻 439-444

日曜日 6月12日

- 1. 古い契約
- a. 十誡がシナイ山で宣言されたとき、イスラエルの民は、どの約束をしましたか(出 エジプト記 19:8; 24:7)。

「人々は、自分たちの心の罪深さと、キリストの助けがなくては神の律法を守ることができないことを自覚しなかった。そして、彼らは直ちに神と契約を結んでしまった。彼らは、自分たちの義を確立することができると感じて、『わたしたちは主が仰せられたことを皆、従順に行います』と宣言した(出エジプト記 24:7)』(人類のあけぼの上巻 441, 442)

- b. シナイで結ばれた契約の条件は何でしたか (エゼキエル 20:11; レビ 18:5; 申命 記 27:26)。
- c. 神は十誡をどこに記されましたか。なぜ民は自分たちの誓いを果たせなかったのですか (出エジプト記 31:18; ローマ 10:3; 9:30-32)。

「〔祭司たちと役人たち〕は律法的宗教に満足していて、他の人々に天の生きた真理を与えることができなくなっていた。彼らは自分の義を十分満足のいくものだと思い、自分たちの宗教に新しい要素がはいることを願わなかった。」(患難から栄光へ上巻 6)

2. 死の務

a. なぜ、パウロは十誡を「死の務」と呼んでいるのですか(コリント第二3:7)。

「モーセの顔の上に輝く栄光は、イスラエルの子らが神の聖なる律法に違反していたために、はなはだしく苦痛であった。これは神の律法を犯す人々の気持ちを描写している。」(セレクテット・メッセージ 1巻 232)

「〔モーセは〕キリストを通してのみ、人は道徳律を守ることができることを見た。 この律法の違反によって、人は世に罪をもたらした。そして罪と共に死が入ってきた。

モーセの顔を照らしていたのは、消え去っていくものを見ること、律法の中に表されたキリストを見ることであった。石に彫り刻まれた律法の務は、死の務であった。キリストなしには、違反者はそののろいの下に、許しの希望なく取り残される。務そのものには栄光はない。しかし約束された救い主、礼典律の型と影のうちに明らかにされたお方が、道徳律を栄光あるものとした。」(同上 237)

「〔イスラエル人は〕モーセが自分たちの仲保者になることを願った。彼らはキリストが彼らの定められた仲保者であること、そしてこのお方の仲保を奪われるなら、確実に焼き尽くされるということを理解しなかった。」(同上 238)

b. 全人類の真の状態は、どのようなものですか (ローマ 3:23; 6:23 (上句))。

「神のみ言葉は、『すべての人は罪を犯したため、神の栄光を受けられなくなっており』と宣言している(ローマ3:23)。『善を行う者はいない、ひとりもいない』(ローマ3:12)。多くの人々は自分の心の状態に関して欺かれている。彼らは生来の心がよろずのものよりいつわるものであることを知らない。彼らは自分のまわりに自分自身の義をまとわりつけ、品性について自分自身の人間の標準に達して満足している。しかし、彼らが神聖な標準に達していないとき、彼らはなんと致命的に失敗することであろう。そして自分自身では、神のご要求にこたえることはできないのである。

わたしたちは自らを自分自身で量るかもしれない。自分たちの間で比べるかもしれない。この人やあの人のようによくやっていると言うかもしれない。しかし、裁きで答えるように求められる質問は、あなたは高い天の要求にこたえたのか、である。わたしたちは天の標準に達しているだろうか。わたしたちの心は天の神と調和しているだろうか。」(同上 320, 321)

3. 新しい契約の条件と祝福

a. 新しい契約の条件は何ですか (ヘブル 8:10-12)。

「恵みの契約は、まず、エデンで人間に与えられたのである。人間が堕落したあとで、女のすえがへびのかしらを砕くという約束が与えられた。この契約は、すべての人に罪のゆるしを与え、キリストを信じる信仰によって、その後従うことができるように、神の恵みの助けを与えた。それは、また、神の律法に忠誠を尽くすことを条件にして、永遠の命を約束した。こうして、家長たちは、救いの希望を与えられたのである。

この同じ契約は、アブラハムにくり返されて、『地のもろもろの国民はあなたの子孫によって祝福を得るであろう』という約束が与えられた(創世記 22:18)。この約束はキリストを指示したものであった。アブラハムは、このことを理解し(ガラテヤ3:8,16参照)、キリストにたよって罪のゆるしを求めた。彼が義と認められたのはこの信仰であった。アブラハムとの契約は、神の律法の権威をも維持した。主は、アブラハムに現われて、『わたしは全能の神である。あなたはわたしの前に歩み、全き者であれ』と言われた(創世記 17:1)。この忠実なしもべについて、神は、『アブラハムがわたしの言葉にしたがってわたしのさとしと、いましめと、さだめと、おきてとを守った』とあかしされた(同 26:5)。…

この契約はアダムと取りかわされ、また、アブラハムにくり返して与えられたとはいえ、キリストの死によって初めて批准されたのである。これは、初めて贖罪の知らせがかすかながら与えられたときから、神の約束によって存在していたのである。人々は、これを信仰によって受け入れていた。しかし、それがキリストによって批准されたときに、それは新しい契約と呼ばれた。神の律法がこの契約の基礎であった。律法は、単に、神のみこころに人々をもう一度調和させ、彼らが神の律法に従うことができるようにする手段であったに過ぎない。」(人類のあけぼの上巻 440)

「『新しい契約』は『よりまさった約束』―罪の許しと心を新たにし、それを神の 律法の諸原則との調和に導き入れる神の恵みの約束に基づいて結ばれた。」(信仰 によってわたしは生きる78)

b. この恵みの契約に従い、だれが神の民ですか (ヘブル 8:10; イザヤ 51:7)。

「キリストの恩恵を通して彼らは天父の律法に従うことができるようにされる。このように、いつの時代にも神は背信と反逆のただ中から、ご自分に忠実な一つの民一『心のうちにわが律法をたもつ』民(イザヤ書 51:7) ―をお集めになる。」(人類のあけぼの上巻 399)

4. 新しい契約の務

a. パウロは恵みの契約の務を、どのように述べていますか (コリント第二 3:4-6; コロサイ 1:25-29)。

「神はわたしたちを魂の救いの働きを助けるご自分のしもべとすることによって、なんと聖なる信任を、わたしたちにお委ねになったことであろう!このお方はわたしたちに数々の偉大な真理、世のために最も厳粛で試金石となるメッセージを委ねてこられた。わたしたちの義務は単に説くことだけでなく、仕えること、心に近づくことである。わたしたちは技能や知恵と共に委ねられたタラントを用いるべきである。それによって真理の尊い光を、もっとも好ましい方法で、魂を勝ち取るのに最も適した方法で、提示することができるためである。…

これはなんという責任であろう!ここに、単にみ言葉を宣布するよりも骨の折れる働きが示されている。それはわたしたちの品性にキリストを表すことであり、すべての人に知られ、読まれる生きた手紙となることである。

わたしたちをこの働きに召してこられたのは、主である。そしてわたしたちはこの お方の栄光だけに目を留めていなければならない。あたかもわたしたちが魂の改心 の働きをできるかのように、自分自身の努力に信頼することはできない。神だけが 罪を自覚させ、改心させることがおできになる。イエスは自分のあらゆる重荷を持ったままご自分の許へ来るようにと罪人を招いておられる。そしてこのお方は彼らに 休息と平安を与えて下さるのである。」(福音宣伝者 422, 423).

b. この務について、ペテロはなんと言いましたか (ペテロ第一5:1-5)。

「偉大な羊飼いであられるお方には、そのもとで働く羊飼いたちがいる。彼らにご自分の羊や小羊の保護を委任しておられる。キリストがペテロにお委ねになった最初の働きは、彼を牧師の働きに戻されて、小羊を養うことであった。[ヨハネ 21:15 参照]。この働きについて、ペテロはほとんど経験がなかった。非常な注意と優しさ、大変な忍耐と辛抱強さが要求される働きであった。それは子供や青年、また信仰に若い人々に仕えることよう彼を召し、無知な者を教え、彼らに聖書を開き、キリストの奉仕において有用なものとなるために、彼らを教育するのであった。これまで彼はこの働きに適していなかったし、その重要性を理解すらしていなかった。

キリストがペテロになされた質問は意味深かった。このお方は弟子となることと奉仕のただ一つの条件を口にされた。『あなたはわたしを愛するか』とこのお方は言われた。これが重要不可欠な資質である。ペテロが他のすべてを持っていても、キリストの愛がなければ、主の群れの世話をする忠実な羊飼いとなることはできないのであった。知識、慈善、雄弁、感謝、熱心はみな、良い働きにおいて助けとなる。しかし、心のうちにイエスの愛がなければ、クリスチャンの牧師の働きは失敗に終わるのである。」(福音宣伝者 182, 183)

5. 覆い

a. なぜモーセは民に語る前に、自分の顔に覆いをつける必要があったのですか。 またこれはどのような意味深いことでしたか(出エジプト記 34:29-35; コリント 第二 3:12, 13)。

「モーセ自身は、自分の顔に放射する栄光が反映していることに気がつかなかった。そして彼が近づいたときに、なぜイスラエルの子らが彼から逃げたのかがわからなかった。彼は彼らを自分の許へ呼んだが、彼らは栄光に輝く顔をあえて見ようとはしなかった。民がモーセの顔をその栄光のために見ることができないことをモーセが知ったとき、彼は顔を覆いでおおった。…

旧約の時代に救い主がおられなかったという見解を持つ人々は、キリストを拒んだユダヤ人のように、自分たちの理解力に暗い覆いをつけている。…クリスチャン教会は、一方、キリストを信じる最高の信仰を公言し、ユダヤ制度を蔑むことによって、事実上、キリストを否定している。このお方こそ、ユダヤ制度全体の創始者であられたのである。」(セレケテッド・メッセージ 1巻 232)

b. どのようにして、わたしたち自身の目からこの覆いを取り除くことができますか (コリント第二 3:14-16)。

「モーセの顔に輝いていた栄光は、律法におけるキリストの義の反映であった。 律法は、その中にキリストが具現化されるのでなければ、それ自体に栄光はない。 律法に救う力はない。律法は、その中にキリストが義と真理に満ちみちて表されて いるのでなければ、光沢のないものである。…

モーセにはキリストを指し示している型と影の意味を明らかにされた。彼は、キリストの死の時、型が本体と会うときに消え去っていくべきものの終わりを見た。彼はただキリストを通してのみ、人が道徳律を守れることを見た。」(同上 237)

会曜日 6月17日

個人的な復習問題

- 1. 今日、イスラエル人の神の道徳律に対する問題は、どのように繰り返されていま すか。
- 2. わたしたちが自分たちの間で比べあうのは、なぜ非常に愚かなのですか。
- 3. 新しい契約の背後にある力を説明しなさい。
- 4. 新しい契約の牧会の聖書的な態度を述べなさい。
- 5. 神の道徳律に栄光をもたらすものは何ですか。

キリストのための大使たち

暗唱聖句:「神がわたしたちをとおして勧めをなさるのであるから、わたしたちはキリストの使者なのである。そこで、キリストに代って願う、神の和解を受けなさい。」(コリント第二 5:20)

「キリストは、昇天後、選ばれた使者たちによってご自分の働きを推進し、彼らを通して、人々に語り、彼らの必要に奉仕される。教会の大いなる頭であられるキリストは、神の代表者として神の命を受けた人間の器を通して、神の働きを監督しておられる。」(患難から栄光へ下巻 41)

推奨文献: 黒難から栄光へ下巻 40-53

日曜日 6月19日

1. 神の法廷

a. だれが神の法廷で裁かれますか(コリント第二 5:10; ローマ 14:12; ダニエル 7:9, 10)。

「こうして、人々の品性と生活が、全地の裁判官であられる神の前で調査され、各人が『そのしわざに応じ』で報いられる重大で厳粛な日が、預言者の幻に示された。日の老いたる者とは、父なる神のことである。詩篇記者は、『山がまだ生れず、あなたがまだ地と世界とを造られなかったとき、とこしえからとこしえまで、あなたは神でいらせられる』と言っている(詩篇 90:2)。万物の根源であり、すべての律法の源であられるおかたが、審判をつかさどられる。」(各時代の大争闘下巻 210, 211)

「〔パウロ〕はすべての者が自分の行ったことに応じて報いを受ける審判の日が、必ず来ることを宣言した。そしてその時には、富も地位も、あるいは称号も、人に神の恵みを得させ、または、罪の結果から逃れさせる力がないことが、明らかにされるのである。彼は、現世が、来世のための準備の時であることを示した。もし人が、現在の特権と機会をなおざりにするならば、永遠の損失をこうむるのである。新たな恩恵期間は、もはや与えられないのである。」(患難から栄光へ下巻 111)

- 2. 裁きにおいて無罪とされる
- a. だれが最初に裁かれますか (ペテロ第一 4:17, 18)。
- b. わたしたちは裁きにおいて、どのように無罪にされることができますか (ヨハネ 3:16, 17; 5:24; ローマ人への手紙 8:1)。

「真に罪を悔い改め、キリストの血が自分たちの贖いの犠牲であることを信じたものは、みな、天の書物の彼らの名のところに、罪の許しが書き込まれる。彼らは、キリストの義にあずかる者となり、彼らの品性は、神の律法にかなったものとなったので、彼らの罪は、ぬぐい去られ、彼ら自身は、永遠の生命にあずかるにふさわしいものとされるのである。主は、預言者イザヤによって、こう宣言しておられる。『わたしこそ、わたし自身のためにあなたのとがを消す者である。わたしは、あなたの罪を心にとめない』(イザヤ書 43:25)。イエスは、次のように言われた。『勝利を得る者は、このように白い衣を着せられるのである。わたしは、その名をいのちの書から消すようなことを、決してしない。また、わたしの父と御使たちの前で、その名を言いあらわそう』(黙示録 3:5)。」(同上 215, 216)

c. 人が無罪とされるための主な条件は何ですか (箴言 28:13; ヨハネ第一 1:9; 使 徒行伝 3:19)。

「許しの前に悔い改めがなければならないことは事実である。しかし、罪人は悔い改めを見出すことができる前に、キリストの許へ来なければならない。魂を強め、啓発するのはキリストの徳であり、こうして悔い改めは信心深く、受け入れられるものとなる。ペテロは、キリストについて述べたときに、このことを明確にした。『イスラエルを悔い改めさせてこれに罪のゆるしを与えるために、このイエスを導き手とし救主として、ご自身の右に上げられたのである』。悔い改めはたしかに罪の許しと同様に、イエス・キリストの賜物である。悔い改めはキリストなしに経験できるものではない。なぜなら、このお方がわたしたちに許しを求める根拠となる悔い改めの創始者であられるからである。人が悔い改めへと導かれるのは聖霊の働きを通してである。赦しの賜物と同様に、悔悟の恵みがもたらされるのはキリストからであり、また罪の許しと同様に悔い改めが得られるのは、ただキリストの贖罪の血を通してである。神はお許しになる人々をまず悔い改めさせる。」(ユース・インストラクター 1894年12月6日)

3. 新生

a. イエスは宗教指導者に、どのメッセージをお語りになりましたか (ヨハネ 3:3-5)。 いつ、またどのように罪人は新しく生まれますか (ヨハネ 1:12, 13)。

「真理が生活の中の不動の原則になるとき、魂は『朽ちる種からではなく、朽ちない種から、すなわち、神の変ることのない生ける御言によ』って『新たに生れ』る。この新生は、キリストを神のことばとして受け入れた結果である。聖霊によって神の真理が心に刻まれると、新しい思いが喚起され、これまで眠っていた力が呼びさまされて神と協力する。」(患難から栄光へ下巻 219)

b. 新生と罪に対する死の経験は、いつ起こるべきですか (コリント第一 15:31)。

「もし苦難によって、天国が得られるとするならば、それはまことに安価なものである。われわれは常に自己を否定し、日毎に自己に死に、イエスだけをあらわすようにし、絶えず彼の栄光を心に留めていなければならない。わたしは、近ごろ真理を信じた人々が、キリストのために苦しむとはなんであるか知らねばならないのを見た。また、彼らが激烈な試練を経なければならないことを見た。それは、彼らが生ける神の印を受け、悩みの時を通過して、麗しく飾った王を見、神ときよい聖天使の前に住むようになるために、苦難によって清められ、ふさわしいものにされるためである。」(初代文集 143)

c. 人が新しく生まれる時、何が起こりますか (コリント第二 5:14-17)。

「キリストによって支払われたあがない代はすべての人の救いのために十分である。しかし、それはキリスト・イエスのうちに新しく造られたもの、神の永遠の御国の忠実な臣民となる人々にのみ効果がある。

キリストの働きは、人間を罪によって生じた傷やうち傷から、神聖な力を通して本来の状態に回復し、癒すことであった。人間の役割は信仰によってキリストの功績をつかむことであり、義なる品性を形成することにおいて神聖な代理人たちと協力することである。こうして神は罪人を救うことができ、なお義でありながら、ご自分の義なる律法を擁護することがおできになる。」(クリスチャン教育の基礎 430)

4. 和解の使者たち

a. わたしたちはどのように神と和解することができますか (エペソ 2:11-13, 16; ヘブル 2:17, 18)。

「サタンの声から、またサタンの意志を行うことから身を引き、イエスの側に立って、このお方の特質を持つ者となりなさい。鋭くやさしい感覚を持つ人、すなわち、悩み苦しむ人の事情を自分自身のものとする人になりなさい。多く許された人は、多く愛する。イエスは同情深い仲保者、憐れみ深く忠実な大祭司であられる。天の大君一栄光の王一であられるこのお方は、サタンの誘惑にさらされている有限な人間を、サタンの策略の力を感じてきたことを知って、サタンの誘惑にさらされている有限な人間を、サタンの策略の力を感じてきたことを知って、サタンの誘惑にさらされている有限な人間をご覧になることがおできになる。」(クリスチャン教育 160)

b. 新しく生まれ、神と和解して、わたしたちは何になりますか (コリント第二 5:18, 19)。

「牧師たちと信徒たちは、聖書を学ぶ学生となり、誤っている人に関して、どのようにふるまうかを理解するべきである。」(レピュー・アンド・ヘラルド 1893 年 1 月 3 日)

「あわれみある者は『神の性質にあずかる者』である。彼らのうちに神の慈悲深い愛があらわれている。心が無限の愛のみ心に一致するすべての者は、罪を責めるのでなく救おうと求める。心の中に住まれるキリストはかわくことのない泉である。主が宿られるところには、いつも恩寵(おんちょう)があふれでるのである。

あやまちを犯し、誘惑に負け、欠乏と罪のうちにあるみじめな犠牲者の訴えに対して、クリスチャンは『彼らはそれに値するだろうか』とは問わない。かえって、『どうしたらわたしは彼らを助けることができるか』と尋ねる。どんなにみじめで、また、どんなに堕落した者の中にも、クリスチャンは、キリストが救おうとして死なれた魂を見、そのような魂のために、神は和解のつとめをその子らにお与えになったことを知るのである。」(祝福の山 27, 28)

「自分たちの無関心によって、多くの教会員たちは神の聖霊を悲しませる。キリストの代わりに、彼らは他の人々に神と和解するよう嘆願しなければならない。天の代理人たちは、主の働きにたずさわる人々と協力しようと待機している。聖霊はすべての真の信徒と同調して結合しようと、また彼を神と共に働く共労者にしようと待っておられる。み働きを前進させる手段が何一つなおざりにされることがないようにしよう。自己称揚があってはならない。そしてはるかにもっと祈りがなくてはならない。」(ポールソン・コレクション118)

5. 使者たち

a. 和解の使者とされることによって、わたしたちが主から受ける使命は何ですか (コリント第二 5:20)。

「主は、救いの使命を携えて行く使者をつかわされ、聞く者たちに、神のしもべたちの言葉をどのように扱うかについて責任を負わせられるのである。」(患難から栄光へ上巻250)

「キリストは、昇天後、選ばれた使者たちによってご自分の働きを推進し、彼らを通して、人々に語り、彼らの必要に奉仕される。教会の大いなる頭であられるキリストは、神の代表者として神の命を受けた人間の器を通して、神の働きを監督しておられる。

宣教と教えによって、神の教会を築き上げるために、神に召された者の地位は、 実に責任重大である。彼らは、キリストに代わって、人々に訴え、神の和解を受け させなければならない。そして、彼らは、上からの知恵と能力を受けることによっ てのみ、彼らの任務を果たすことができるのである。」(同上 41)

b. キリストの使者たちは、自分たちの使命に、どのように成功することができますか (使徒行伝 1:8)。

「これこそ、われわれが力を受ける手段なのだから、み霊の賜物を飢えかわくように求めようではないか。それについて語り、そのために祈り、そのことについて説教しようではないか。両親がその子供たちによい贈り物を与えるときよりももっと気持ちよく、主は人々に聖霊を与えてくださる。み霊のバプテスマを日ごとに受けるためには、働き人がめいめい神に願いをささげなければならない。クリスチャンの働き人は仲間同士集まって、いかに計画し、賢く実行するかということを知ることができるように、特別な助けと天来の知恵を求めなければならない。…み霊が神の働き人と共にいるとき、真理の宣伝には、この世の名誉や栄光のすべてをもってしても与えることのできない力が加えられるのである。」(同上 46, 47)

金曜日 6月24日

個人的な復習問題

- 1. わたしは自分の選ぶ考えや行動について、何を思いにとめ続けている必要がありますか。
- 2. どのように、いつ、またなぜ、わたしは真剣に神の受け入れを求めるべきですか。
- 3. 新しく生まれた信徒の考える過程に、何が起こりますか。
- 4. 神との和解について、何がわたしの召しですか。
- 5. キリストの使者として、わたしたちは各自、何のために真剣に祈るべきですか。

第一安息日献金



4月2日

チリのユニオン本部のために (4ページ参照)

5月7日

世界のミッションのために (30ページ参照)



6月4日

ルワンダにおける伝道学校のために (51ページ参照)